

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

### 【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、学位授与の方針に関する知識、技法、態度の修得をする。

### 【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べるようになる。

### 【授業計画】

- |      |               |       |
|------|---------------|-------|
| 第1回  | 憲法の存在意義       |       |
| 第2回  | 憲法と法律の区別      |       |
| 第3回  | 国民主権と政治制度     |       |
| 第4回  | 法律の執行と行政権     |       |
| 第5回  | 裁判所と司法権       |       |
| 第6回  | 憲法改正と法律の改正    |       |
| 第7回  | 基本的人権の意味      |       |
| 第8回  | 精神的自由権(1)     | 内心の自由 |
| 第9回  | 精神的自由権(2)     | 表現の自由 |
| 第10回 | 経済的自由権        |       |
| 第11回 | 人身の自由         |       |
| 第12回 | 社会権           |       |
| 第13回 | 法の下での平等と幸福追求権 |       |
| 第14回 | 平和主義          |       |
| 第15回 | 個人の尊厳と立憲主義    |       |

### 【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

### 【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

### 【使用テキスト】

なし。必要な資料は適宜配布する。

### 【参考文献】

なし。

科目名： 健康とスポーツ

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

### 【授業の紹介】

スポーツを行う本来の目的は、スポーツそのものを楽しむ、つまり、心身の開放にあります。他方、スポーツは身体活動を伴うものであり、例えば、スポーツ活動によって体力の向上や現代社会で問題になっている過栄養と運動不足が原因で生じるメタボリックシンドロームの予防策として活用することもできます。本授業ではスポーツ生理学の視点からスポーツ活動が体力の向上や健康の維持増進に及ぼす効果と合理的な運動実施法（運動処方）について学習し、生涯にわたり自律的に健康管理ができる実践力を身に付けます。

### 【到達目標】

1. スポーツ生理学によりスポーツ活動が身体機能に及ぼす効果について科学的理解を深めることをめざします。
2. 修得したスポーツ生理学の知識を活かし自己の体力や健康の維持増進のための運動実践が自律的に実行できるようにします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツと健康
- 第3回 スポーツと体力
- 第4回 エアロビクス運動とは
- 第5回 エアロビクス運動の方法
- 第6回 メタボリックシンドロームとは
- 第7回 メタボリックシンドロームの予防法
- 第8回 肥満と運動療法
- 第9回 運動と三大栄養素
- 第10回 運動とビタミン
- 第11回 運動とミネラル
- 第12回 運動と疲労
- 第13回 運動と睡眠
- 第14回 運動と加齢
- 第15回 まとめ（健康づくりに関する質疑応答）

### 【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、スポーツ生理学の知識を活用し栄養や運動処方についてのレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

### 【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

- 中西光雄著『運動生理学入門』（技術書院、1993年）  
上野俊文監修『ウォーキングの基本』（JTBパブリッシング、2007年）

科目名： 健康とスポーツ実習

担当教員： 花城 清紀(HANASHIRO Kiyonori)

### 【授業の紹介】

本授業では様々な競技スポーツを通して、基礎的な知識や技能、ルールや戦術を身に付けることを目的としている。健康づくりや生きがいづくりの観点からもスポーツを捉えることができる態度を養うことや、スポーツを通して的確なコミュニケーションを図り仲間と協調するとともに、リーダーシップを発揮することでスポーツに関わる諸問題の解決に取り組んでいく。

### 【到達目標】

様々な競技スポーツを通して基礎的な技能や知識、ルールや戦術を身に付けることができる。練習やゲームを通して的確なコミュニケーションを図り、仲間と協調することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ゴール型スポーツ (バスケットボール：ルールの理解および基本技術)
- 第3回 ゴール型スポーツ (バスケットボール：シュート、2対2、ミニゲーム)
- 第4回 ゴール型スポーツ (バスケットボール：ゲーム)
- 第5回 ゴール型スポーツ (サッカー：ルールの理解および基本技術)
- 第6回 ゴール型スポーツ (サッカー：シュート、2対2、ミニゲーム)
- 第7回 ゴール型スポーツ (サッカー：ゲーム)
- 第8回 ベースボール型スポーツ (ソフトボール：ルールの理解および基本技術)
- 第9回 ベースボール型スポーツ (ソフトボール：キャッチボール、バッティング)
- 第10回 ベースボール型スポーツ (ソフトボール：ミニゲーム)
- 第11回 ネット型スポーツ (バレーボール：ルールの理解および基本技術)
- 第12回 ネット型スポーツ (バレーボール：レシーブ、トス、スパイク)
- 第13回 ネット型スポーツ (バレーボール：ゲーム)
- 第14回 ネット型スポーツ (バドミントン：ルールの理解、基本技術)
- 第15回 ネット型スポーツ (バドミントン：基本ストローク、ゲーム)

### 【授業時間外の学習】

様々な競技スポーツについて、日頃から関心を持ち各自意見をまとめておく必要がある。また、学習した内容についての理解度を確認するためにレポート提出を課す。

### 【成績の評価】

授業態度(40点)、レポート(20点)、期末試験(40点)で評価する。  
またレポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。  
60点以上を合格とする。

### 【使用テキスト】

テキストは特に指示せず、適宜資料を配布する。

### 【参考文献】

なし。

科目名： 英語 【経】

担当教員： 柏原 智美(KASHIHARA Tomomi)

### 【授業の紹介】

本授業では、基礎的な文法力の定着を図るとともに、グローバル社会において自らの力を地域社会に役立てることを目的とし、実践的なコミュニケーション能力の育成を重点的に行います。身近で実用的なトピックを扱いながら、読む・聞く・書く・話すという英語の総合的な運用能力の向上を目指します。

また、さらなるリスニング能力の定着に向けて、ディクテーション活動を適宜取り入れます。毎回、十分に予習・復習を行った上で授業に臨んで下さい。

### 【到達目標】

- ・英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- ・英文法の基礎を理解することができる。
- ・異文化に対する理解を深めることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、現在時制・過去時制
- 第2回 Unit 1 I commute by Train
- 第3回 未来表現
- 第4回 Unit 2 What Are You Going to Do This Weekend
- 第5回 現在完了形
- 第6回 Unit 3 Have You Ever Volunteered?
- 第7回 There is/are 構文
- 第8回 Unit 4 Is There a Bank Near Here?
- 第9回 助動詞
- 第10回 Unit 5 Could I Join Your Class?
- 第11回 助動詞
- 第12回 Unit 6 You Should Apply for the Program
- 第13回 疑問詞
- 第14回 Unit 7 What Do the Plans Include?
- 第15回 比較級・最上級

### 【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、以下の点を徹底してください。

- 小テストに向けての復習
- 授業への十分な予習

### 【成績の評価】

小テスト(20%)、期末テスト(30%)、提出課題等(20%)、授業中の各活動(30%)

小テストはその都度解答・解説を行う。また、提出課題等においては評価後返却し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

高田智子、Diane H. Nagatomo 著

『Say It Now!』-Grammar for Communication- (金星堂 2017年)

### 【参考文献】

英和辞典を必ず準備してください(電子辞書可)。

科目名： 英語 【経】

担当教員： 柏原 智美(KASHIHARA Tomomi)

### 【授業の紹介】

英語に継続し、本授業では基礎的な文法力の定着を図るとともに、グローバル社会において自らの力を地域社会に役立てることを目的とし、実践的なコミュニケーション能力の育成を重点的に行います。身近で実用的なトピックを扱いながら、読む・聞く・書く・話すという英語の総合的な運用能力の向上を目指します。

また、さらなるリスニング能力の定着に向けてディクテーション活動を適宜取り入れます。毎回、十分に予習・復習を行った上で授業に臨んでください。

### 【到達目標】

- ・英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- ・英文法の基礎を理解することができる。
- ・異文化に対する理解を深めることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、Unit 8 My New Apartment Is Safer Than My Old One
- 第2回 動名詞
- 第3回 Unit 9 Typing is Easy for Me
- 第4回 to不定詞
- 第5回 Unit 10 I Have Many Things to Learn
- 第6回 because/if節
- 第7回 Unit 11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour
- 第8回 受動態
- 第9回 Unit 12 Osamu Tszuka is Admired by Many People
- 第10回 過去分詞・現在分詞
- 第11回 Unit 13 Here Is a Book Showing Various Recipes!
- 第12回 関係代名詞
- 第13回 Unit 14 There Is a Candidate Who I Want to Support
- 第14回 頻度/様子を表す副詞
- 第15回 Unit 15 This Semester Finished So Fast!

### 【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、以下の点を徹底してください。

- 小テストに向けての復習
- 授業への十分な予習

### 【成績の評価】

小テスト(20%)、期末テスト(30%)、提出課題等(20%)、授業中の各活動(30%)  
小テストはその都度解答・解説を行う。また、提出課題等においては評価後返却し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

高田智子、Diane H. Nagatomo 著  
『Say It Now!』-Grammar for Communication- (金星堂 2017年)

### 【参考文献】

英和辞典を必ず準備してください(電子辞書可)。

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【経】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

### 【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook

### 【到達目標】

The goal of the course is to teach the students basic communicative skills that they can use in day to day environment. The textbooks starts with introducing yourself, introducing others, and talking about different cultural aspects that are related to English. Since the instructor is a native English teachers, students will be given every opportunity to use living English

### 【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 1 Introductions
- 第3回 Unit 1 Talking about yourself
- 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
- 第5回 Unit 2 Work and school
- 第6回 Unit 2 Asking information
- 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
- 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
- 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
- 第10回 Unit 3 Shopping English
- 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
- 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
- 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
- 第14回 Unit 4 Inviting people do things
- 第15回 test review

### 【授業時間外の学習】

Students will be occasionally be given homework to prepare for the next week's lesson

### 【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination.

### 【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A  
Author: Jack C. Richards  
Publisher: Cambridge University Press  
2,052yen

Students will be required to get a Japanese to English dictionary.

### 【参考文献】

なし

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【経】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

### 【授業の紹介】

The prerequisite for this course is Practical English I. Students will continue to closely follow the outline of the textbook. Emphasis will be on basic communication skills in English. The topics will be basic English conversation. Students should use English in every class.

### 【到達目標】

The goals of this course is to build on the skills that the students learned in Practical English I. They should become proficient in basic English communication skills, and a rudimentary understanding in grammar and vocabulary in order to accomplish that goal. Students will be able to converse with the native English instructor on common everyday topics.

### 【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 5 Family
- 第3回 Unit 5 Relationships
- 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
- 第5回 Unit 6 Exercising
- 第6回 Unit 6 Doing things
- 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
- 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
- 第9回 Unit 7 Free time
- 第10回 Unit 7 At home
- 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
- 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
- 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
- 第14回 Unit 8 Describing an locale; conversation quiz
- 第15回 test review

### 【授業時間外の学習】

Students will occasionally be required to do homework in order to prepare for the next lesson.

### 【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. 70% will come from a comprehensive final examination.

### 【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A  
Author: Jack C. Richards  
Publisher: Cambridge University Press  
2,052 yen

Students will be asked to bring a Japanese to English dictionary to class

### 【参考文献】

なし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

### 【授業の紹介】

<英語 外国語>確かに英語が話せると便利だと思いますが、ドイツ語や中国語、フランス語もまた世界への窓を開くと思いませんか？新しく素晴らしい発見が多くできるように授業を進めていきたいと考えています。ネイティブのフランス語教師のもとでその都度、理解度を確かめながら丁寧に無理なく、「使える」フランス語をABCから勉強していきます。基礎的な発音や短い構文からまずフランス語に親しみ、慣れてきたら単語や文法を学びながら実用的な表現や会話文を身につけます。初級的な教材（ビデオ教材を含む）を用いて、主に口頭練習を行います。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

### 【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 授業紹介(講義中での教室内のルール・決まり事など)、アルファベット
- 第2回 フランス語の発音に親しむ、挨拶の仕方を覚える
- 第3回 国籍を言う・第1課の本文を理解する・主語人称代名詞
- 第4回 第1課の本文を暗記する・動詞etre (...である)の変化
- 第5回 第一群規則動詞の変化・ロールプレイを用いて口頭練習
- 第6回 名前や職業を言う・第2課の本文を理解する
- 第7回 第2課の本文を暗記する・形容詞の性・数の一致
- 第8回 フランス語の発音と綴り字の読み方・練習問題
- 第9回 持ち物を尋ねる・第3課の本文を理解する・男性名詞、女性名詞、不定冠詞
- 第10回 第3課の本文を暗記する・動詞avoir (...を持っている)の変化
- 第11回 趣味を語る・第4課の本文を理解する・定冠詞
- 第12回 第4課の本文を暗記する・疑問文の作り方、疑問詞
- 第13回 ビデオ教材を用いて、フランス文化に親しむ(パリの歴史的建造物の紹介)・練習問題
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

### 【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

### 【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

### 【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

### 【参考文献】

特になし



科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

### 【授業の紹介】

フランス語で身につけた知識をベースに、コミュニケーションの場で使える「生」のフランス語の習得を目指します。初回から積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待しています。既習事項を確かめながら、暗記や応用練習を通じて最小限の構文・文法の法則を理解する中で、少しずつ自分についての表現もできるようになります。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

### 【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 フランス語の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
- 第2回 第5課の本文を理解する・<誰ですか>を尋ねる・非人称構文：il y a ... (...がある)
- 第3回 第5課の本文を暗記する・否定文の作り方
- 第4回 疑問代名詞qui(誰)、練習問題
- 第5回 第6課の本文を理解する・<したいこと>を尋ねる・前置詞と定冠詞の縮約
- 第6回 指示形容詞・否定疑問文の応答、練習問題
- 第7回 第6課の本文を暗記する・動詞vouloirとpouvoir(したい、できる)の変化
- 第8回 第7課の本文を理解する・<住んでいる場所>を言う・人称代名詞の強勢形
- 第9回 第7課の本文を暗記する・所有形容詞
- 第10回 第8課の本文を理解する・<何をしているか>を尋ねる・動詞faire(~をする)の変化
- 第11回 第8課の本文を暗記する・疑問代名詞que(何)
- 第12回 場所を表す前置詞、フランスの習慣に親しむ(パリの公園など)(ビデオ教材)、練習問題
- 第13回 第9課の本文を理解する・<家族を語る>・否定文における冠詞の変形
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

### 【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

### 【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

### 【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

### 【参考文献】

特になし

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

### 【授業の紹介】

この授業では、中国語を話すや読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

### 【到達目標】

- 1．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができます。
- 2．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになります。
- 3．中国語基本文型の構造が理解できます。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
- 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
- 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
- 第4回 子音、鼻音
- 第5回 ピンインの小テスト
- 第6回 名前の言い方
- 第7回 簡単な挨拶
- 第8回 「是」の使い方
- 第9回 形容詞述語文
- 第10回 中間テスト
- 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
- 第12回 動詞述語
- 第13回 疑問文のタイプ
- 第14回 数字の言い方
- 第15回 お金の言い方

### 【授業時間外の学習】

授業内容の復習と中国文化や習慣などについて調べたりします。

### 【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）  
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

### 【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

### 【授業の紹介】

この授業は、中国語を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

### 【到達目標】

- 1 簡単な会話ができるようになります。
- 2 簡単な中国語を読める・書けるようになります。

### 【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」、
- 第2回 存在する動詞「有」
- 第3回 時間量詞の学習
- 第4回 存在の表現
- 第5回 過去形
- 第6回 選択疑問文
- 第7回 中間テスト
- 第8回 現在進行形
- 第9回 「会」、「能」の使い方
- 第10回 助動詞「可以」
- 第11回 動詞の重ね型
- 第12回 「是・・・的」の使い方
- 第13回 過去の経験を現す「过」
- 第14回 連動型
- 第15回 復習

### 【授業時間外の学習】

授業内容の復習

### 【成績の評価】

作文(25%)、小テスト(25%)、期末テスト(50%)  
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社、2014年)

### 【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 情報基礎演習【経】

担当教員： 山下 博武(YAMASHITA Hiromu)

### 【授業の紹介】

この授業では、職場内や組織間のコミュニケーションのために必要となる、基本的な情報リテラシーとパソコン操作を主に扱います。様々な授業で課されるレポート課題をこなしていくためにも、ワープロソフトWordを使って様々な文書の作成を練習することが必要です。また、表計算ソフトExcelやプレゼンテーションソフトPowerPointを使って、分かりやすく効果的な情報伝達のための資料作りの基本を学びます。

### 【到達目標】

1. 基本的なウィンドウ操作、ファイル・フォルダ操作を行うことができる
2. レポートや卒業論文を作成するときに必要な速度で、文字入力ができる
3. 情報リテラシーの基本を理解している
4. レポートや様々なビジネス文書を作成することができる（ワープロ検定）
5. 表現したい情報に適したグラフを作成できる
6. 分かりやすく効果的なプレゼンテーション資料を作成できる

### 【授業計画】

- 第1回 受講ガイダンス
- 第2回 Windowsの基本操作と日本語入力
- 第3回 ファイルやフォルダの操作
- 第4回 情報リテラシー(1)：メールの仕組みとエチケット
- 第5回 情報リテラシー(2)：ソーシャルネットワークサービスとエチケット
- 第6回 情報リテラシー(3)：パソコンのセキュリティの基礎
- 第7回 ビジネス文書(1)：ページ設定、印刷、保存、文書編集
- 第8回 ビジネス文書(2)：タブ、作表
- 第9回 ビジネス文書(3)：ビジネス文書の書式
- 第10回 表計算(1)：基本操作
- 第11回 表計算(2)：基本的な関数
- 第12回 表計算(3)：グラフ
- 第13回 プレゼンテーション資料(1)：基本操作
- 第14回 プレゼンテーション資料(2)：情報の関係を表す図形
- 第15回 総括：テスト・課題に関する説明

### 【授業時間外の学習】

タッチタイピングの練習や文書制作などの課題を課す。

### 【成績の評価】

授業における制作物（75%）、テスト・課題（25%）

### 【使用テキスト】

杉本くみ子・大澤栄子編著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）1,300円

### 【参考文献】

なし

科目名： 情報応用演習【経】

担当教員： 松田 有加里(MATSUDA Yukari)

### 【授業の紹介】

「情報基礎演習」に引き続いて、Officeソフトの利用について学びます。様々な文書を作成するために必要な機能を学ぶほか、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトとの連携について学びます。なお、下記の授業計画は目安であって受講生の理解度に合わせて進行状況を変えることがあります。

### 【到達目標】

1. レポートや様々なビジネス文書を作成することができる（ワープロ検定）
  2. 分かりやすく効果的なプレゼンテーション資料を作成できる
  3. 論文作成時に使用する目次生成や文献参照などの機能を操作できる
- 以上3点を目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回 受講ガイダンス
- 第2回 ビジネス文書(1)：作図
- 第3回 ビジネス文書(2)：図とテキストの廻り込み
- 第4回 デザイン文書(1)：段組み、ドロップキャップ、ワードアート
- 第5回 デザイン文書(2)：数式の挿入、ページ罫線
- 第6回 差込印刷
- 第7回 フィールドコード
- 第8回 スタイル
- 第9回 卒論で使用する機能(1)：セクション区切り、ページ番号
- 第10回 卒論で使用する機能(2)：アウトライン、目次作成
- 第11回 卒論で使用する機能(3)：相互参照
- 第12回 外部フォントの利用とフォントの埋め込み
- 第13回 Officeソフトの連携(1)：クリップボード
- 第14回 Officeソフトの連携(2)：様々な利用
- 第15回 これまでの講義の復習および質疑応答

### 【授業時間外の学習】

タッチタイピングの練習や文書制作などの課題を課す。

### 【成績の評価】

授業における制作物（75%）、テスト・課題（25%）

### 【使用テキスト】

杉本くみ子ほか「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013」（実教出版）1,300円  
ISBN978-4407332537

### 【参考文献】

適宜指示する。

科目名： 経営学概論

担当教員： 植木 英治(UEKI Eiji)

### 【授業の紹介】

経営学概論では、まず、経営学とはどのような学問か、またそれがどのように生成し、発展してきたのか。その研究対象である企業は社会でどのような役割を果たしているか。企業にはいかなる形態があるか。現代の企業はどのように形成され、発展してきたのか。企業の代表的形態である株式会社は、どのような特徴を備えており、統治はどのようになされているか。さらに、企業が厳しい競争の中で長期的に存続し発展するために、経営者はどのような役割を果たしているのか。企業は競争に勝つためにどのような戦略を採っているか。経営組織にはどのような仕組みがあり、どのように管理されているか。経営倫理はなぜ重要か。企業文化とは何か。その機能は何か。企業ではその財産や損益の状態をどのように把握しているのか。等々を概説する。この授業は、学士（経営学）の学位を授与するために不可欠の必修の科目として設置され、経営の基礎的知識を修得し、それを組織において適切に活用できるように計画されている。

### 【到達目標】

この授業を通じて、経営学という学問が科学全体の中でどのような位置付けにあるかが理解できる。経営学の研究対象、研究方法、研究目的がどのようなものかが理解できる。広義の経営学体系の中はどのような分野に分かれ、それらがどのような科目に細分されて構成されているかが理解できる。企業はどのようにして生成し、どのように発展してきたかが理解できる。企業の存在する社会的意義と形態はどのようなものであるかを理解できる。株式会社とは何か、その仕組みはどうなっているかが理解できる。経営者の職能には何があるかを理解できる。経営戦略はどのように策定され実行されているかが理解できる。経営組織はどのように編成されているかが理解できる。人はどうなると仕事にやる気が起こるのかが理解できる。企業の社会的責任はなぜ求められるかが理解できる。他等々を目標としている。

### 【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン（講義の概要、課題レポートの書き方、成績評価の仕方）
- 第2回 経営学の研究方法と体系
- 第3回 経営学の歴史
- 第4回 企業の生成と発展
- 第5回 現代企業の意義と形態
- 第6回 株式会社の特徴と所有構造
- 第7回 株式会社の機関とガバナンス
- 第8回 経営者の職能
- 第9回 経営戦略の基本
- 第10回 経営組織の編成
- 第11回 リーダーシップとモチベーション
- 第12回 経営倫理（CSR）
- 第13回 企業文化
- 第14回 会計制度
- 第15回 サマリー（期末試験の実施要領、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々）

### 【授業時間外の学習】

企業や経営に関心を持つように、最近話題となっている事柄を4つ、課題としてを与えるので、それらを文献やインターネット等で資料を3つ以上調べ、それらを比較・検討してまとめ、指示した書式で課題レポートを作成して提出する。すべての課題レポートは、期末試験前日までに合格して終了しておかなければならない。

### 【成績の評価】

期末試験の得点（80%）、課題レポートの内容と提出時期（15%）、講義に対する質疑応答（5%）などにより評価する。なお、4つの課題レポートは、それぞれ提出から2週間以内にはチェックをするので、不合格の場合は何度でも訂正と再提出が求められる。各レポートと質疑などに対する評価コメントは、その都度学生に直接伝えてフィードバックする。

### 【使用テキスト】

講義の開始時に指示する。

### 【参考文献】

必要に応じて随時紹介するが、下記の書籍を参考文献の一例として掲げておく。

深山明・海道ノブチカ編著 『基本経営学（改訂版）』 同文館出版、2015年。

科目名： 簿記演習

担当教員： 松田 有加里(MATSUDA Yukari),岡田 龍哉(OKADA Tatsuya)

### 【授業の紹介】

企業が行う調達・製造・販売・財務といった経済活動を、金額に換算し、継続的に帳簿に記入する手段が複式簿記である。それゆえ、複式簿記はビジネス言語といわれており、企業の活動を表現し、企業がどのような方向に進んでいるのかを示してくれる。したがって、企業で仕事をするためには複式簿記の知識が不可欠である。本授業では、複式簿記の知識と技術について日商簿記検定3級の範囲で説明を行う。毎回、必ずテキスト、ワークブック、電卓（12桁）を持参すること。

### 【到達目標】

一般的な簿記・会計用語の意味を説明できる。  
商品売買など基本的な仕訳問題を解くことができる。  
個人事業における、仕訳から精算表の作成までの一巡の手続きを理解する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション及び貸借対照表と損益計算書
- 第2回 取引と仕訳
- 第3回 元帳への転記
- 第4回 試算表の作成
- 第5回 財務諸表の誘導と6桁精算表の作成
- 第6回 決算の振替記入と帳簿の締切
- 第7回 簿記手続きの一巡
- 第8回 商品売買（掛取引を含む）
- 第9回 商品売買（返品・値引など）
- 第10回 現金と現金過不足
- 第11回 当座預金と当座借越
- 第12回 小口現金
- 第13回 約束手形と為替手形
- 第14回 手形の割引と裏書
- 第15回 まとめ：総合問題演習

### 【授業時間外の学習】

簿記の修得には、復習が不可欠である。授業では、毎回、課題を課す。具体的には、授業内容の復習としてワークブックの問題演習を行い、次回の授業では復習状況を小テストにより確認する。必ず最初の授業までにテキスト、ワークブックを購入するとともに、電卓（12桁）を準備しておく必要がある。

### 【成績の評価】

課題の提出状況（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）により総合的に評価する。

### 【使用テキスト】

ネットスクール著『日商簿記3級に合格するための学校【テキスト】』ネットスクール出版  
ネットスクール著『日商簿記3級に合格するための学校【問題集】』ネットスクール出版

### 【参考文献】

なし。

科目名： 簿記演習

担当教員： 松田 有加里(MATSUDA Yukari),岡田 龍哉(OKADA Tatsuya)

### 【授業の紹介】

企業が行う調達・製造・販売・財務といった経済活動を、金額に換算し、継続的に帳簿に記入する手段が複式簿記である。それゆえ、複式簿記はビジネス言語といわれており、企業の活動を表現し、企業がどのような方向に進んでいるかを示してくれる。したがって、企業で仕事をするためには複式簿記の知識が不可欠である。本授業は、複式簿記の知識と技術について日商簿記検定3級の範囲で説明を行う。

毎回、必ずテキスト、ワークブック、電卓（12桁）を持参すること。

### 【到達目標】

一般的な簿記・会計用語の意味を説明できる。

個人事業における、仕訳から精算表の作成までの一巡の手続きを理解する。

毎年、6月、11月、2月に実施される日商簿記検定3級程度の簿記知識を身につける。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（前期の復習）
- 第2回 その他の債権債務の処理（未収金・未払金・前払金・前受金）
- 第3回 その他債権債務の処理（立替金・預り金・引出金・税金）
- 第4回 有価証券の処理
- 第5回 有形固定資産の処理
- 第6回 決算整理（売上原価の計算と貸倒れの見積もり）
- 第7回 決算整理（収益・費用の見越し・繰延）
- 第8回 8桁精算表の構造
- 第9回 8桁精算表の作成
- 第10回 損益計算書と貸借対照表の構造
- 第11回 伝票（3伝票制）
- 第12回 伝票（5伝票制）
- 第13回 合計残高試算表
- 第14回 残高試算表
- 第15回 まとめ：総合問題演習

### 【授業時間外の学習】

簿記の修得には、復習が不可欠である。授業では、毎回、課題を課す。具体的には、授業の内容をワークブックの問題演習により復習し、その復習状況を次回の小テストで確認する。それゆえ、最初の授業までにテキスト・ワークブックを必ず購入し、電卓（12桁）を準備する必要がある。

### 【成績の評価】

課題の提出状況（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）により総合的に評価する。

### 【使用テキスト】

ネットスクール著『日商簿記3級に合格するための学校【テキスト】』ネットスクール出版

ネットスクール著『日商簿記3級に合格するための学校【問題集】』ネットスクール出版

### 【参考文献】

なし。



科目名： ビジネス実務概論 (H29年度入学生よりビジネス実務概論(H30年度開講))

担当教員： 末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

営業部門・販売部門・購買部門・人事部門・会計部門等の各種部門においては、担当する業務に関する情報・データを定められた基準に従って処理し、次の人あるいは次部門といった次工程へ処理した情報・データを流している。この業務ごとに定められた情報・データの処理を行うことをビジネス実務という。ビジネス実務としては担当する業務が、計画した時間内にスムーズに行われ、次工程へ引き継がれることが大切である。

この関連する一連の業務の進め方を「ワークフロー」と呼んでいる。ワークフローは組織毎の構成員の経験・知識・教育レベルに応じたものでなければならない。また、企業競争力を向上するには、オフィス環境を整え、情報・データの流れを管理し、連絡ミスや時間のロスを極力防止して業務（オペレーション）効率を上げることが必要である。このような業務推進を続けることにより、組織としては高い生産性を維持でき、構成員は個々人のキャリアを磨くことができる。

このようなビジネス実務の概念、ビジネス実務の推進能力、実務能力の開発方法、ビジネス実務とキャリアなどに関する基礎を学習することにより、ビジネス現場における業務のすすめ方を身につける。さらに販売士資格や上級ビジネス実務士資格の取得にもつなげる。

学位授与の方針とは、特に「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 急激に変化している企業を取り巻く環境の実際を理解することができる。
2. 仕事とは何か等、会社が社員に求めるものの基本を明確に認識することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション よりよい就職のために
- 第2回 就業力を磨こう
- 第3回 企業における業務（開発・生産・販売）
- 第4回 会社の目的・組織 企業を必要とするのはだれか
- 第5回 商品をもってみよう
- 第6回 ビジネスは何を目指すのか 企業が成長するための条件
- 第7回 ビジネス環境をとらえる その1 グローバル化
- 第8回 ビジネス環境をとらえる その2 高度情報化
- 第9回 ビジネス環境をとらえる その3 地球環境・少子・高齢化
- 第10回 年功序列・成果主義・協同労働（月次会議、週次会議）
- 第11回 ビジネスの進め方（報告連絡相談、PDCA、情報活動）
- 第12回 ビジネスの進め方（オペレーション）
- 第13回 キャリアデザイン その1
- 第14回 キャリアデザイン その2
- 第15回 これまでの講義の復習及び質疑応答・ビジネス実務の今後

### 【授業時間外の学習】

事前に配布した資料に関しては予習を行い、質問点疑問点を明確にしたうえで授業にのぞむこと。学期中にミニ・レポートを課す。講義中のノートを必ず読み返し、レポート作成の参考とすること。

### 【成績の評価】

毎回の講義での積極性を評価する（30%）。また、ミニ・レポート（40%）および期末レポート（30%）を作成する。この受講態度および提出レポートにより、前述の割合で評価する。その際、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、受講生のレポートについては講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

全国大学実務教育協会編『ビジネス実務総論（改訂版）』（紀伊国屋書店）1,900円

### 【参考文献】

参考文献・参考図書は授業時に紹介する。

科目名： ビジネス実務演習

担当教員： 森 享子(MORI Kyoko),丸山 豊史(MARUYAMA Shigefumi)

### 【授業の紹介】

ビジネスに欠かせないのが人と人との信頼関係です。信頼関係を築くにはまず、相手とのコミュニケーションが大切です。コミュニケーションの目的はまず相手の考えていることを理解することです。その相手の考えを理解した上で、自分としての提案とか、相手の要望にこたえる返答を行います。このコミュニケーションをスムーズに進める力を身につけることはすべてのビジネスの基本です。この授業ではこのようなコミュニケーションの力を君たちに身につけてもらうため、自分の意見や考えを明確にするため、ワークショップやロールプレイを行います。ワークショップとは、参加者が自主的活動方式で行い、メンバー同士で互いに問題解決に向かって議論することによって気づきや発見を促すことができ、個人が社会の中で機能する力を高める方法です。合意形成型会議の手法を取り入れて、グループメンバーの意見の一致を図る話し合いを行います。ロールプレイとは役割演技のことで、聴き手と話し手になって相手との信頼関係を築く聴き方や話し方を身につける練習の方法です。

### 【到達目標】

社会に出るといろいろな人と出会います。その人たちをお客様としてあるいは上司として、いろいろな話し合いを行います。そのような話し合いをスムーズに行う力の基礎を身につけます。具体的には学園生活の中で出会う人たち誰とでも、スムーズに友達になれるようになることを目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・自己紹介
- 第2回 初対面の信頼関係の構築(グループワーク)
- 第3回 信頼関係の構築上手な話の聴き方(傾聴法)
- 第4回 信頼関係の構築上手な話の伝え方(アサーション)
- 第5回 話し合いワークショップその1 合意形成法 ディスカッションとは
- 第6回 話し合いワークショップその2 雇いたいと思う人材・エンプロイアビリティ
- 第7回 話し合いワークショップその3 就職するまでに身につけたいビジネススキル
- 第8回 話し合いワークショップその4 高度情報化(高度情報化とそのもたらすもの)
- 第9回 話し合いワークショップその5 少子高齢化(ビジネス現場と少子高齢化問題)
- 第10回 話し合いワークショップその6 地球環境(環境問題とビジネス)
- 第11回 話し合いワークショップその7 経済グローバル化(グローバリゼーションと企業)
- 第12回 話し合いワークショップその8 日本的雇用システムの転換(ワークスタイルの変化)
- 第13回 話し合いワークショップその9 オフィスからワークプレイスへ(オフィスの変化)
- 第14回 話し合いワークショップその10 事例研究(人間関係のトラブル)
- 第15回 まとめ(これまでの講義の復習及び質疑応答)、期末レポート提出

### 【授業時間外の学習】

ビジネスに必要な信頼関係がどのようにして構築されていくのか、自身の生活の中で観察してみることが授業の参考になります。積極的に今日起きたことを振り返り、どのように行動すればさらに良かったかを考えて下さい。授業の最後に今日学んだことをまとめた振り返りミニ・レポートを課します。自分の変化や成長を記述して下さい。毎回次のテーマについて調べてくる宿題を出しますので、事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして、まとめてきてください。事前に知っておくことによってディスカッションが活発にできるようになります。

### 【成績の評価】

毎回の講義で積極性(30%)、宿題・発表(20%)、振り返りミニレポート(20%)、期末レポート(30%)を作成します。この提出レポートおよび授業貢献度により総合的に評価します。レポート課題については最良のものについて解説を行うことでフィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

テキストは特に指示せず、必要な資料は講義の都度、配布します。

### 【参考文献】

全国大学・短期大学実務教育協会編『ビジネス実務総論』(紀伊国屋書店)

科目名： 企業論

担当教員： 岡本 丈彦(OKAMOTO Takehiko)

### 【授業の紹介】

現代の資本主義経済社会においては、我々は「企業」を抜きに生活を営むことは殆ど不可能である。すなわち、我々の生活は「企業」の様々な活動によって維持されている。したがって、製品やサービスの生産と供給という働きは企業本来の役割であり、この機能を利潤を獲得しつつ誠実に果たすことが求められている。

本講義においては、まず「企業」とは何かを経営学、そして経済倫理・企業倫理の観点から検討を行う。その上で、責任の担い手としての企業と責任の組織を明らかにし、企業の責任について議論を行う。そして、利益獲得による企業の責任について考察を行い、企業の行動が重要な不一致を引き起こす事例と、そのような重要な不一致の同定、診断、予防、そして治療について検討を行う。これらの議論を踏まえた上で、ステークホルダーの責任について講義を行う。

本講義は、ディプロマポリシーの「自己管理能力、責任感、周囲への配慮、倫理観などを持ち、チームワークを重視した社会性を持った行動ができること」に関連した科目である。

また、本講義においてはテキストの第3部を中心に講義を実施する。

### 【到達目標】

本講義においては、次の事項を到達目標とする。

企業のメルクマールを理解できるようになる。

企業と社会の関係を理解できるようになる。

企業と信頼を理解できるようになる。

企業の責任が理解できるようになる。

第三者の正当な利害に損害を与えるWin-Win関係が問題であること、が理解できるようになる。

本講義においては、以下の基本的な能力の育成を目標とする。

・現実の企業の行動を企業倫理・経済倫理の観点から批判的に検討するという意味での、クリティカル思考の育成

・企業の責任を概念として把握することができる能力という意味での、コンセプチュアルスキルの育成

・企業の責任を経済的な観点から考察するという意味での、会計情報把握能力の育成

### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（講義の概要、課題レポートの書き方、成績評価の仕方）
- 第2回 企業とは何か - 現代社会に担い手としての企業 -
- 第3回 責任の担い手としての企業 - 多国籍企業と責任 -
- 第4回 責任の組織 - ガバナンスの構造 -
- 第5回 企業の責任と企業の社会的責任 - 2つの責任の違い -
- 第6回 企業の社会的責任の果たし方 - 企業の責任とは慈善なのか？ -
- 第7回 利益獲得による企業の責任 - 第三者を犠牲にするWin-Win関係 -
- 第8回 利益獲得による企業の責任 - 第三者を犠牲にしないWin-Win関係 -
- 第9回 正当な信頼期待に応える企業の責任
- 第10回 黄金律の概念 - お互いのメリットのための社会的協力の条件へ投資せよ！ -
- 第11回 黄金律の体験 - ゲームを利用した黄金律の体験 -
- 第12回 重要な不一致の概念 - 同定すること、診断、予防 -
- 第13回 重要な不一致の治療
- 第14回 ステークホルダーの責任
- 第15回 これまでのまとめ（期末試験の説明、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々）

### 【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、使用テキストの該当ページを必ず読んでおくこと。また、課題レポートを3回課す。講義中に明示する所定の形式に従い作成の上、所定の場所に必ず期限を守り提出のこと。少なくとも2つのレポートを提出しなければ、試験を受けることができない。

所定の形式に従わないレポートは、採点の対象としない。

期日を過ぎたレポートは原則として受け取らない。

レポートの採点基準は、講義中に3点～5点明示する。

指定された場所に出さないレポートについてはいかなる理由があっても受け取らない。

### 【成績の評価】

試験の得点(60%)、課題レポートの内容(30%)、そして、授業の積極性と態度(10%)で評価を行う。

試験と課題レポートについては、採点基準を講義の中で明示し、それに従って採点を行い、希望する学生には点数を開示する。また、優秀なレポートについては講義のフィールドワークを行う。

### 【使用テキスト】

アンドレアス・ズーハネク著/柴田明・岡本丈彦訳 [2017], 『企業倫理：信頼に投資する』 同文館出版。

**【参考文献】**

必要に応じて随時指示する。

科目名： 経営学原理

担当教員： 岡本 丈彦(OKAMOTO Takehiko),井藤 正信(ITO Masanobu)

### 【授業の紹介】

本講義においては、「経営学概論」及び「企業論」を学んだものが、経営学に欠かすことの出来ない要素について理解を深める。経営学は他の学問よりも、誤った使い方をすることで社会に対して重大な影響を与えることが可能な学問としての側面を持っている。したがって、経営学には「良心」や「倫理」が必要不可欠なのである。

以上のような問題意識に基づいて、本講義においては経営学と経済倫理・企業倫理について講義を行っていく。その際には倫理の基本となる道徳的な判断能力や、企業における協働の問題、信頼の概念について検討を行う。その上で、企業が活動を行う際に、社会からの信頼をどのように獲得すべきなのか、についても講義する。そして、経営学の目的である企業の利益獲得が、社会的な信頼関係を壊すことなく達成するには、どのようにすれば良いのかについても議論を行う。

本講義は、ディプロマポリシーの「自己管理能力、責任感、周囲への配慮、倫理観などをもち、チームワークを重視した社会性を持った行動ができること」と関連した科目である。

また、本講義においてはテキストの第1章から第9章までを中心に講義を行い、課題レポートの内容はテキストのトピックより指定する。

### 【到達目標】

本講義においては、次の事項を到達目標とする。

企業や企業人にとって倫理観がなぜ大切なのかを、理解できるようになる。

経営学には、良心や倫理がなぜ大切なのかを、理解できるようになる。

企業が信頼を裏切る行為がどのような問題を内包しているのかを、理解できるようになる。

「お互いのメリットのために社会的協力の条件に投資せよ」がなぜ大切なのかを理解できるようになる。

本講義で重視する基本的な能力は以下の通りである。

- ・クリティカル思考の育成
- ・コンセプチュアルスキルの育成
- ・国際理解・多文化理解能力の育成

### 【授業計画】

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション（講義の概要、課題レポートの書き方、成績評価の仕方）   |
| 第2回  | 企業や企業人にとって倫理はどれほど重要なのか？               |
| 第3回  | 企業と道徳的判断能力                            |
| 第4回  | 企業と倫理 - 企業における意思決定を中心として -            |
| 第5回  | 企業と倫理 - 3つのレベルのスキーム -                 |
| 第6回  | 企業と信頼 - 信頼する側の理論：企業に対してのステークホルダーの信頼 - |
| 第7回  | 企業と信頼 - 信頼される側の理論 -                   |
| 第8回  | 企業と信頼 - 信頼する側の行為可能性 -                 |
| 第9回  | 企業における道徳的観点 - 企業不祥事と後悔 -              |
| 第10回 | 企業における道徳的観点 - 規範主義的な短絡思考と経験主義的な短絡思考 - |
| 第11回 | 企業の社会的な枠組み条件 - 人間が持つ特性を中心として -        |
| 第12回 | 企業の社会的な枠組み条件 - 企業と時間的な次元の問題 -         |
| 第13回 | 企業の社会的な枠組み条件 - 企業と社会的な次元の問題 -         |
| 第14回 | 企業の利益獲得の正当性                           |
| 第15回 | これまでのまとめ（期末試験の要領、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々） |

### 【授業時間外の学習】

講義の最後に、次回の講義内容に該当するテキストのページを指定するため、該当箇所を読んで講義に臨むこと。

また、本講義では企業の行動が倫理的なものであるのか、について理解と関心を持つように、講義の進捗状況に合わせて、2、3つの課題を与える。テキストの理論をベースに、文献やインターネットを用いて自ら調べ、所定の形式のレポートを提出すること。所定の形式に従わないレポートについては採点の対象とはしない。

### 【成績の評価】

試験の得点(60%)、課題レポートの内容(30%)、そして、授業中の積極性と態度(10%)で評価を行う。

試験と課題レポートについては、採点基準を講義の中で明示し、それに従って採点を行い、希望する学生には点数を開示する。また、優秀なレポートについては講義の最中にフィールドワークを行う。

### 【使用テキスト】

アンドレアス・ズーハネク著/柴田明・岡本丈彦訳 [2017] 『企業倫理：信頼に投資する』 同文館出版。

**【参考文献】**

適宜、講義内において、指示を行う。

科目名： 経済学概論

担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

### 【授業の紹介】

前半では経済学の基礎的理論につき、後半ではわが国経済の実態につき、講義を行います。経済学的なモノの見方・考え方は、慣れるまでは少々とっつきにくいこととは思いますが、このような見方・考え方は、みなさんが社会生活を送るに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。少し我慢していると、身の回りのいろいろな出来事の持つ意味がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。これにより、学位授与の方針のうち、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

### 【到達目標】

1. 「経済」に関する具体的なイメージを把握していただき、受講生が将来直面する経済情勢について、的確な理解をすることができるようになることをめざす。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ミクロ経済学の基礎（市場価格の決定）
- 第3回 ミクロ経済学の基礎（市場の失敗）
- 第4回 ミクロ経済学の基礎（市場の失敗）
- 第5回 マクロ経済学の基礎（マクロ経済学の狙い）
- 第6回 マクロ経済学の基礎（需要管理政策）
- 第7回 財政赤字と税制（市場経済と政府の役割）
- 第8回 財政赤字と税制（日本の税制）
- 第9回 貿易摩擦（自由貿易と保護貿易）
- 第10回 貿易摩擦（貿易摩擦の事例）
- 第11回 高齢化社会（高齢化の実情と影響）
- 第12回 高齢化社会（年金と医療保険）
- 第13回 日本型雇用慣行（慣行の合理性）
- 第14回 日本型雇用慣行（雇用情勢の変化と対策）
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答

### 【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには、相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を、時間をかけてぜひ身につけてください。

### 【成績の評価】

レポート提出（50%）、期末試験（50%）の結果により総合的に判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

### 【参考文献】

篠原総一・西村理『入門 日本経済』日本評論社、1989年。（\3,240）

科目名： 商業概論

担当教員： 日笠 倫周(HIKASA Michinori),末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

製品を販売する企業にとって、小売や卸売といった商業者の存在は効率的な販売活動を行う上で重要な存在です。また、商業者の存在は、消費者である我々にとっても、日々の消費行動を助けてくれる重要な存在です。

本講義では、商業論の基礎的な概念や理論枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とします。そのために、商業の構造と商業者の関係といった議論に特に焦点を当てます。

なお、関連科目として、マーケティング論などを履修することが望ましいです。

### 【到達目標】

1. 商業論の基礎理論を理解し、その理論枠組みを説明することができる。
2. 商品流通の仕組みを理解し、身近な商業者の役割を説明することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 商業とは何か
- 第3回 小売・卸売商業の構造
- 第4回 現代の流通構造
- 第5回 商業構造のまとめ+小テスト
- 第6回 商業における信頼関係
- 第7回 商業におけるパワー関係
- 第8回 生産者による流通系列化
- 第9回 小売業者による製販統合
- 第10回 小売業者によるPB開発
- 第11回 商業者の関係のまとめ+小テスト
- 第12回 小売業者の行動
- 第13回 卸売業者の行動
- 第14回 商業における革新
- 第15回 これまでのまとめと質疑応答

### 【授業時間外の学習】

商業論は、普段買い物を行うスーパーやコンビニなどに関して学ぶ学問なので、買い物などに行った際は授業で習ったことを思い出して下さい。

また、授業後は講義資料で復讐するようにして下さい。

### 【成績の評価】

成績は、小テスト(40%)、期末レポート(60%)を総合して評価します。  
小テスト・期末レポートの採点基準は講義時に説明します。

### 【使用テキスト】

高嶋克義著『現代商業学(新版)』(有斐閣、2014年)

### 【参考文献】

石原武政・佐藤善信・池尾恭一著『商業学』(有斐閣、2000年)

鈴木安昭・田村正紀著『商業論』(有斐閣新書、1980年)

原田英生・向山雅夫・渡辺達朗著『ベーシック 流通と商業 現実から学ぶ理論と仕組み(新版)』(有斐閣、2010年)



科目名： 簿記論

担当教員： 松田 有加里(MATSUDA Yukari)

### 【授業の紹介】

本講義では、日商簿記検定3級合格相当の知識を習得していることを前提として、日商簿記検定2級の範囲の商業簿記を学習する。特に、日商簿記検定2級の範囲の特徴ともいえる株式会社会計に関する内容を中心に学び、組織において活用できる実践力を養う。

毎回、必ず教科書、ワーク、電卓（12桁）を持って来ること。

### 【到達目標】

個人事業主と株式会社での簿記処理の違いを理解できる。  
株式会社の財務諸表を作成する問題を解くことができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&株式会社とは
- 第2回 株式の発行
- 第3回 剰余金の配当と処分
- 第4回 税金
- 第5回 一般商品売買
- 第6回 銀行勘定調整表
- 第7回 授業のまとめと中間試験
- 第8回 固定資産（購入、建設時の処理、期末評価等）
- 第9回 固定資産（除却・廃棄、改良等）
- 第10回 無形固定資産
- 第11回 有価証券（購入と売却）
- 第12回 有価証券（満期保有目的債券、端数利息の処理）
- 第13回 引当金
- 第14回 収益と費用
- 第15回 財務諸表の作成

### 【授業時間外の学習】

簿記は原理を理解し、練習問題を解くことで身に付くため、事前にテキストを読み、復習として該当する問題を解くこと。

### 【成績の評価】

課題の提出状況（15%）、提出物の内容（30%）、中間試験（20%）、期末試験（35%）で評価する。課題の解説は、次回授業時に行う。

### 【使用テキスト】

- 滝澤ななみ著『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商2級 商業簿記（第6版）』TAC出版（1,512円（税込））
- 滝澤ななみ著『みんなが欲しかった簿記の問題集 日商2級 商業簿記（第6版）』TAC出版（1,296円（税込））

### 【参考文献】

なし

科目名： 会計学原理

担当教員： 津村 怜花(TSUMURA Reika)

### 【授業の紹介】

近年、新聞記事やニュースで会計用語が日常的に用いられており、ビジネスの共通言語として、簿記・会計の知識が必須となってきた。本講義では、これらを理解するために、会計の種類や会計制度の仕組み、その役割等、会計学の基礎的な知識を身に付ける必要がある。本講義では、出来る限り平易な言葉を用いて、会計学の基礎的な知識を説明する。講義中には多々質問をするので、ただ説明を聞くのではなく、自分の言葉で考えを発信するなど、積極的に講義に参加するように努めること。

簿記演習 ・ の知識を前提に、授業をすすめる。

### 【到達目標】

基本的な会計用語や会計制度を説明できる。

財務諸表を読むことができる。

以上の目標を達成することで、会計学に係る専門知識の基礎を身に付ける。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	会計情報の役割
第3回	会計制度と社会
第4回	会計の仕組み
第5回	貸借対照表
第6回	在庫の会計
第7回	生産設備の会計
第8回	金融資産の会計
第9回	負債と資本の会計
第10回	損益計算書
第11回	営業活動の会計
第12回	儲かる仕組みの分析
第13回	利益構造の分析
第14回	経営管理と会計
第15回	会計を活用する仕事

### 【授業時間外の学習】

参加型の講義を行うため、事前に授業範囲に該当する教科書等を読んで予習しておくこと。毎回、復習プリントを配布するため、これを活用し、しっかりと復習すること。

このほか、簿記演習 ・ を履修していない者は、日商簿記検定3級程度の知識を授業時間外に復習または学習しておく必要がある。

### 【成績の評価】

講義での発言（20%）、復習プリント（20%）、期末試験（60%）により総合的に評価する。

復習プリントに関しては、次週（プリント提出日）の講義冒頭において解説する。また、期末試験の模範解答は、掲示板にて公開する。

### 【使用テキスト】

谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社（2,592円（税込））

この他、必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献】

桜井久勝編・須田一幸著『財務会計・入門（第10版補訂）』有斐閣アルマ（1,944円（税込））

桜井久勝著『財務会計講義（第17版）』中央経済社（4,104円（税込））

科目名： ビジネス法概論

担当教員： 松尾 邦之(MATSUO Kuniyuki)

### 【授業の紹介】

皆さんが実社会で働く際に経験することが多く、失敗やリスクにもチャンスにもつながる、物やサービスの取引やお金・資金の調達・貸し借り、そして働く場としての会社・企業のしくみと労使の権利と義務について学びます。

### 【到達目標】

- ・ビジネスにかかわる法律用語や文書に慣れること。
- ・物やサービスの取引に関するさまざまな法律があることやその大まかなしくみを理解すること。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方や学習方法について）。ビジネスと法律のかかわり
- 第2回 ビジネスと法律のかかわり
- 第3回 契約とその役割・効果 / 売買を中心に
- 第4回 ビジネスにおける債権の管理と回収 / 決済方法と担保
- 第5回 ビジネスにおける債権の管理と回収 / 決済方法と担保
- 第6回 企業財産の取得・管理と法律
- 第7回 企業活動と法規制 / 経済法規制・消費者保護等規制・ビジネス犯罪
- 第8回 企業活動と法規制 / 経済法規制・消費者保護等規制・ビジネス犯罪
- 第9回 法人と企業、会社の種類としくみ
- 第10回 法人と企業、会社の種類としくみ
- 第11回 企業と従業員の関係 / 労働契約と労働基準規制
- 第12回 企業と従業員の関係 / 労使関係と労働組合法
- 第13回 企業と従業員の関係 / 雇用における平等・均衡取り扱い
- 第14回 取引と家族関係・相続とのかかわり
- 第15回 全体の復習とまとめ

### 【授業時間外の学習】

法律用語や考え方に慣れるように、また正確に理解できるように配布されたメモや資料をもとに各自が作成したノートを読み返し毎回復習することが重要です。

### 【成績の評価】

期末試験と毎回配布する質問カードの提出状況・内容とを勘案して評価します。

### 【使用テキスト】

なし。必要なメモや資料を配布します。

### 【参考文献】

なし。最新版（平成29年度版）のコンパクト六法やポケット六法を持っていると予習復習に役立ちます。

資格を取りたい場合は、東京商工会議所・ビジネス実務法務検定試験公式テキスト(各1・2・3級)

科目名： ファイナンス入門

担当教員： 鈴江 一恵(SUZUE Kazue)

### 【授業の紹介】

本科目ではみなさんがどの分野に進んでも役に立つパーソナル・ファイナンスについて学習します。具体的には、生活設計に必要なお金に関する知識（金融商品、保険、不動産、税金、年金、相続など）を習得していただけるように概説し、その習得した知識が生活やビジネスの場で活用できるように、討議型のケースメソッド授業も実施します。

また、FP（ファイナンシャル・プランナー）\*の資格取得に向けて基礎力の養成も目指しますので資格を取得したい方には特に受講をおすすめします。

なお、本科目は、「ファイナンス論」の入門編であり、本科目を受講するにあたって「くらしと経済」を受講していることが望まれます。

\*FPは、金融商品、保険、不動産、税金、年金、相続など幅広い知識をもって包括的な視点で、各分野の専門家の協力も得ながら顧客にアドバイスを行う「ライフプランの実現を手助けする専門家」です。

### 【到達目標】

近年、個人をとりまく経済・金融環境が大きくかつ急速に変化し、生活者として経済的にも自己責任を全うできる力を身につけることが必要とされています。また、ビジネスの一場面でも顧客の生活設計についてアドバイスを求める能力が求められています。そこで本科目では、個人の生活設計において必要とされるお金に関する知識を体系的に習得することをめざします。また、国家資格「3級FP技能士」資格取得希望者の基礎力の養成も図ります。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 パーソナル・ファイナンス総論
- 第3回 ライフプランニング（資金計画の立て方、社会保険のしくみ）
- 第4回 ライフプランニング（社会保険制度の基礎知識）
- 第5回 リスク管理（生命保険の基礎知識）
- 第6回 リスク管理（損害保険の基礎知識）
- 第7回 金融資産運用（金融のしくみ、金融商品の基礎知識）
- 第8回 金融資産運用（金融商品の特徴）
- 第9回 ケースメソッド《討議型授業》
- 第10回 タックスプランニング（税のしくみ）
- 第11回 タックスプランニング（所得税・住民税の基礎知識）
- 第12回 不動産運用（不動産の見方）
- 第13回 不動産運用（不動産取引の基礎知識）
- 第14回 相続（贈与・相続の基礎知識）
- 第15回 これまでの授業のまとめ（期末試験対策）

### 【授業時間外の学習】

毎回、授業の終わりに次回授業の範囲を提示しますのでテキストの該当ページを読んでおいてください。また、習得した知識の整理や関連情報の収集を行うほか、期末試験対策としてテキストを復習するなど日常的な取り組みが必要です。

### 【成績の評価】

受講態度（40%）、レポート（10%）、期末試験（50%）により評価します。

なお、レポートについては後日の授業で模範解答例を紹介します。

また、「FP技能検定」の受検状況も評価します。

詳細は、最初の授業で説明しますので必ず出席してください。

### 【使用テキスト】

最初の授業で指示します。その他、適宜プリントを配布します。

### 【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 消費者行動論

担当教員： 丸山 豊史(MARUYAMA Shigefumi), 日笠 倫周(HIKASA Michinori)

### 【授業の紹介】

製品やサービスを取り扱う企業にとって、消費者の行動を理解し分析するということは、効果的かつ効率的にマーケティング活動をすすめるために極めて重要である。

本講義では、消費者行動に関する理論枠組みを理解することを第一目的とし、その上で企業のマーケティング活動と消費者行動との関係を理解することを目的とする。

なお、消費者行動を理解するためには様々な分野の学問の知識が必要となる。

初級レベルの統計学、マーケティングおよび商業に関する知識、高校レベルの数学の知識、心理学に関する知識を持ったうえで講義に参加することが望ましい。

### 【到達目標】

消費者行動の基礎理論を理解し、その理論枠組みを説明することができる。  
消費者行動の理論を具体的な消費行動に当てはめ、分析することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問題の認識と購買意思決定
- 第3回 情報探索と代替案評価
- 第4回 購買行動と購買後の評価
- 第5回 消費者の知覚
- 第6回 知識と記憶
- 第7回 学習
- 第8回 動機付けと感情
- 第9回 これまでの学習のまとめと質疑応答
- 第10回 態度
- 第11回 態度形成とその変容
- 第12回 関与
- 第13回 消費者の個人特性
- 第14回 消費者行動と状況的要因（集団・社会）
- 第15回 これまでの学習のまとめと質疑応答

### 【授業時間外の学習】

講義内容やテキスト内容に関して少しでもわからない箇所が出てきた場合は必ず教員に質問し、わからないままの箇所を放置しないようにして欲しい。

また、消費者行動は私達の行動について学ぶ学問であるので、買い物場や遊びに行く際、「今どうしてこの品物を選んだのかな？」など、常に自分の行動について振り返るようにすることが望ましい。

### 【成績の評価】

成績は、小テスト（40パーセント）、期末レポート（60パーセント）を総合して評価します。

### 【使用テキスト】

杉本徹雄『消費者理解のための心理学』（福村出版、1997年）

### 【参考文献】

青木幸弘『消費者行動の知識』（日経文庫、2008年）

青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司著『消費者行動論』（有斐閣アルマ、2012年）

池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩『マーケティング』（有斐閣、2010年）

神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社、2014年）

田中洋・清水聰著『消費者・コミュニケーション戦略 現代のマーケティング戦略』（有斐閣アルマ、2006年）

科目名： 民法

担当教員： 辻上 佳輝(TSUJIGAMI Yoshi teru)

### 【授業の紹介】

民法は、日常生活に最も密接に関係する法令です。その中でも、「契約法および不法行為法」を内容とする債権各論部分を学習します。

### 【到達目標】

契約関係における当事者間の権利義務関係や、不法行為領域における責任の認定に関する基礎知識の習得を到達目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回：契約総論（契約に関する一般的原則）
- 第2回：契約の成立（契約の成立要件）
- 第3回：契約の効力 - 同時履行の抗弁権・危険負担
- 第4回：契約の終了 契約の解除
- 第5回：売買契約（1） 売買契約の一般的ルール
- 第6回：売買契約（2） 売主の瑕疵担保責任
- 第7回：賃貸借契約（1） 賃貸借契約の一般的ルール
- 第8回：賃貸借契約（2） 転貸する場合のルール
- 第9回：請負契約（請負契約における請負人の責任）
- 第10回：不法行為法総論（不法行為法における基本的原理）
- 第11回：一般の不法行為の成立要件（1） 権利侵害と過失
- 第12回：一般の不法行為の成立要件（2） 因果関係
- 第13回：不法行為の効果（1） 損害賠償に関する一般的ルール
- 第14回：不法行為の効果（2） 損害賠償額の調整（過失相殺・損益相殺）
- 第15回：特殊の不法行為（使用者責任）

### 【授業時間外の学習】

期末試験に向けて、復習を中心にしてください。予習は必要ありません。

### 【成績の評価】

期末試験の成績（期末試験をどのような形式で行うかは未定）、コミュニケーションカードの提出状況（出席点）によって判定します。期末試験約60%、カードの提出約40%の割合となる予定です。

### 【使用テキスト】

ありません。毎回の講義内容は、配布する講義資料に書かれています。

### 【参考文献】

基本的にはありません。第1回の講義で指示します。

科目名： 商法

担当教員： 前原 信夫(MAEHARA Nobuo)

### 【授業の紹介】

私たちの日常生活において日々多くの経済活動が行われ、それは多くの企業取引や企業活動によって支えられています。例えば、食べ物や衣服など私たちの日常生活において必要な多くのものは企業によって提供されていますし、大学卒業後に多くの人が企業へ就職することでしょう。このように、私たちは、好むと好まざるとに関わらず、生活の糧を得て生きて行くためには企業(会社)と無縁の生活を送ることはできません。そこで、本講義では、企業取引を規律する基本的な枠組みを定める商法と、企業活動に関わる様々な人々の利害関係を調整することを目的とする会社法を通じて、経営(卒業判定・学位授与の方針の一部)に関する知識・技法・態度を修得します。

### 【到達目標】

本講義は、「法と現実の乖離」を念頭に置きながら、商法・会社法上の諸制度を理解することを目的とします。これにより、学生は、商法・会社法に関する専門用語を身に付けること、「法と現実の乖離」を念頭に置きながら問題の解決を導くことができます。

### 【授業計画】

第1回	ガイダンス / 商法・会社法とは
第2回	権利の主体
第3回	商人、商行為
第4回	商号、商業登記、商業使用人
第5回	会社とは何か
第6回	会社の種類
第7回	株式と株主 株式とは何か
第8回	株式と株主 株式の種類
第9回	株式と株主 株式の種類(続き) / 中間テスト
第10回	会社の機関 株式会社の種類
第11回	会社の機関 株主総会
第12回	会社の機関 取締役・取締役会
第13回	資金調達 株式の発行
第14回	資金調達 新株予約権・社債の発行
第15回	会社の設立

授業の進度により変更する場合があります。

### 【授業時間外の学習】

本講義で扱う内容は広範なため、テキストを一読して授業に臨むようにして下さい。また、普段から日本経済新聞等の日刊新聞紙を通してわが国におけるタイムリーな経済活動にアンテナを張っておくことが、本講義の理解に大いに役立つものと思われます。

### 【成績の評価】

中間テスト(40%) / 期末試験(60%)の合計点により評価します。なお、中間テストは当該テストの次回講義において解説を行い、期末試験については配点および解答のポイントを掲示等を行うことによりフィードバックします。

なお、講義中の私語、スマートフォンや携帯電話等の電子機器類の使用は認められません。教員の指示に従わない学生には退室を求めるとともに、単位を認定しないので、十分に注意して下さい。

### 【使用テキスト】

浅木慎一『商法探訪 第2版』¥1,890(信山社、2010年)。

### 【参考文献】

なし。

科目名： ビジネス実務演習Ⅱ（※H29年度休講）

担当教員： 関 由佳利（SEKI Yukari）

### 【授業の紹介】

ビジネス社会では、所属している組織の人たちや取引先など外部の人たちと関わりながら仕事を進め、目的を達成していきます。目的を達成するためには、関わる人々との信頼関係を築くことが大切です。また、ビジネスの現場で業務を遂行するためには、ビジネス実務の基本スキルを身に付けておく必要があります。

ビジネス実務演習Ⅱでは、ビジネス実務を実際に行うために必要な知識・技能について演習形式で学びます。演習を通してビジネスマンとしての心構えや態度を理解し、ビジネスマナー、話し方、情報の扱い方、ビジネス文書の書き方、会議の基礎知識などを身に付けていきます。

### 【到達目標】

ビジネス実務の基本スキルを理解し、身に付けることを目標とします。

- ①ビジネスマンとしての心構え、仕事の進め方、組織の機能について理解を深める。
- ②人間関係について理解し、ビジネスマナーが活用でき、適切な話し方ができるようになる。
- ③情報、ビジネス文書、会議について基本的な知識を身に付ける。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、ビジネスマンとしての心構え
- 第2回 仕事の進め方（指示の受け方、報告の仕方）
- 第3回 仕事の進め方（協調性、合理性）
- 第4回 組織の機能（業務分掌、職位、社会的責任）
- 第5回 人間関係
- 第6回 ビジネスマナー（あいさつ、訪問、来客応対、席次）
- 第7回 ビジネスマナー（電話応対、名刺交換、服装）
- 第8回 話し方
- 第9回 敬語の使い方
- 第10回 交際のマナー
- 第11回 情報の整理と伝達
- 第12回 ビジネス文書（社内文書と社外文書）
- 第13回 ビジネス文書（Eメールと文書の取り扱い）
- 第14回 会議の基礎知識
- 第15回 事務機器と事務用品

### 【授業時間外の学習】

ビジネス実務の基本スキルを身に付けるためには、時間外の学習が必要です。幅広い内容を学びますので、学んだことは必ず復習してください。ビジネスマナーや敬語は、繰り返し実技練習を行って身に付けてください。日常生活でも、丁寧な言葉遣いや感じのよい表情・態度を心がけましょう。ビジネス文書は、例題を何度も書いて形を覚えてください。ビジネスの現場で通用する力を養うために、知識だけではなく、日ごろからよい人間関係を築くことも意識してください。

### 【成績の評価】

課題（20%）、実技発表（20%）、期末試験（60%）の結果により総合的に判断します。

### 【使用テキスト】

実務技能検定協会編『ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級』（早稲田教育出版、2010年）

### 【参考文献】

実務技能検定協会編『ビジネス実務マナー検定受験ガイド2級』（早稲田教育出版、2012年）

実務技能検定協会編『ビジネス実務マナー検定受験ガイド1級』（早稲田教育出版、2013年）



科目名： 経営管理論

担当教員： 井藤 正信(ITO Masanobu)

### 【授業の紹介】

講義では、経営管理の概念 = コンセプトについての理解からはじめる。概念 = コンセプトというと、難しくそうだが、要するに「経営管理とは何か」ということを受講者に理解してもらうことから出発する。英語でBusiness Managementというように、企業における管理とは何かについての講義が中心になる。もちろん、経営学の初学者でも理解できるように、できるだけ平易な言葉を用いるように心がけ、学位授与方針にかなうよう指導することに努める。ただ、受講生が熱心に受講しないと結局は内容について理解できないまま終わってしまうことになる。

### 【到達目標】

経営学という社会科学に関する基本的な知識を有する。より具体的に言えば、  
経営管理について基本的なことが理解できる。  
経営管理で用いられるキータームについて理解できる。  
経営管理について他の人にやさしく説明できる。  
社会や組織の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。

### 【授業計画】

教員のスケジュール上の都合や進度との関係によって変更の可能性も一部ある。

第1回 ガイダンス 教員の自己紹介と2回目以降の授業予定を簡潔に説明する。また、期末試験と評価方法について説明する。

第2回 経営管理の対象について 企業とは

第3回 経営管理の対象について 企業とは

第4回 経営管理の歴史

第5回 アメリカの経営管理の発展

第6回 アメリカの経営管理の発展

第7回 アメリカの経営管理の発展

第8回 アメリカの経営管理の発展

第9回 小テスト 質問 ディスカッション

第10回 日本の経営管理の発展

第11回 日本の経営管理の発展

第12回 日本の経営管理の発展

第13回 現代日本企業の経営管理

第14回 小テスト 質問 ディスカッション

第15回 第14回までの授業内容の復習とまとめ 特に重点事項を整理し、経営関連科目の受講を考慮して専門用語の意味内容の理解に努めたい。

### 【授業時間外の学習】

経営学の入門テキストをあらかじめ読んでおき、授業に備えること。そのために、予習を2時間ほどすることが望ましい。もちろん、復習も同程度の時間をかけることが望ましい。

### 【成績の評価】

授業中に課した小テストや質疑応答についての評価(40%)と期末試験の成績(60%)とをあわせて総合的に評価する。なお、期末試験終了後に、模範解答を提示し、その解説を行う。それが今後受講する経営関連科目の理解の助けになると思われる。

### 【使用テキスト】

基礎コース経営学 第3版 著者 小松章 出版社 新世社

### 【参考文献】

入門経営学 第3版 入門経営学 著者 亀川雅人他 新世社

科目名： 経営史

担当教員： 植木 英治(UEKI Eiji)

### 【授業の紹介】

経営史学は、過去の個別の企業の経営活動を、現在の立場から、その社会経済的背景とともに、生成・発展・転化の過程として考察し、それらの歴史的特質を解明し、さらにそれらを国別・産業別などに整序することによって企業一般の発展に共通して見られる歴史的法則性を発見し、これらの研究を通じて企業経営における長期的方向を展望しようとする研究である。そこで、この授業では、まず経営史学の研究方法を取り上げ、続いて経営史学の形成過程について考察し、そこで得られた観点から西ヨーロッパにおける資本主義企業経営の生成と発展の過程を分析し、その後アメリカおよび日本の企業経営の歴史的特色を、経済動向、法社会制度、文化様式、技術進歩、政治状況、および経営戦略や組織、等々の視点から総合的に考察して、企業経営の長期的方向を展望する。この授業は、学士（経営学）の学位を授与するために必要な経営の専門的知識を修得し、それを組織において適切に活用できるように計画されている

### 【到達目標】

経営史学の研究対象は何か、その研究課題は何か、またそれをどのような方法で研究しているのかが理解できる。経営史学全体はどのような分野に分かれ、それがさらにどのような科目に細分されて研究されているかという経営史学の体系が理解できる。経営史学は、いつ、どこで、どのような動機から研究が始められ、どのように発展し展開してきたかが理解できる。中世の西ヨーロッパに始まった近代企業の原初形態はどのような特徴があり、それがどのように形成されてきたかを理解できる。その後生成してきた初期資本主義企業の経営はどのような特徴があり、それがどのように発展したかが理解できる。第1次産業革命が当時の企業にどのような変化を引き起こし、それが経済や社会にどのような変化をもたらしたかが理解できる。アメリカにおける「現代企業」がどのような状況から生成し、それがどのような特徴を持って発展したかが理解できる。第2次大戦後のアメリカ企業はどのように発展し、また新たにどのような産業として発展してきているかが理解できる。日本の近代企業はいつ、どのように生成し、発展してきたかが理解できる。いわゆる日本的経営の成立と変貌を理解できる。等々を目標としている。

### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（講義の概要、課題レポートの書き方、成績評価の仕方）
- 第2回 経営史学の研究対象、研究課題および研究方法
- 第3回 経営史学の源流（ドイツ歴史学派経済学、イギリス経済史学）
- 第4回 経営史学の形成（N.S.B. グラス、A.H. コール、A.D. チャンドラーJr.）
- 第5回 西欧資本主義企業経営の前史（コンメンダ、ソキエタス、マグナ・ソキエタス）
- 第6回 西欧資本主義企業経営の生成（小営業経営、問屋制家内工業経営、マニファクチュア経営）
- 第7回 西欧資本主義企業経営の成立（第1次産業革命、工場制機械工業経営）
- 第8回 アメリカにおける「現代企業」の出現背景 1（東部・南部・西部地域における市場形成と連結）
- 第9回 " 2（経営組織の改革と会計制度の整備）
- 第10回 アメリカにおける「現代企業」の発展 1（新産業の台頭と伝統的商業の変革）
- 第11回 " 2（コングロマリットの出現とネットワーク企業の興隆）
- 第12回 日本における近代企業経営の発展 1（財閥の興隆と解体）
- 第13回 " 2（日本的経営の確立と変容）
- 第14回 " 3（リーン生産偏重からCS重視へ）
- 第15回 サマリー（期末試験の要領、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々）

### 【授業時間外の学習】

経営史学に関する理論や企業経営の発展などについて、課題を4つ与えるので、それらを文献やインターネット等で資料を3つ以上調べ、それらを比較・検討してまとめ、指示した書式で課題レポートを作成して提出する。なお、すべての課題レポートは、期末試験前日までに合格して終了しておかなければならない。

### 【成績の評価】

期末試験の得点（80%）、課題レポートの内容と提出時期（15%）、講義に対する質疑応答（5%）などによって評価する。なお、4つの課題レポートは、それぞれ提出から2週間以内にはチェックするので、不合格の場合は何度でも訂正と再提出が求められる。各レポートと質疑に対する評価コメントは、その年度学生に直接伝えてフィードバックする。

### 【使用テキスト】

講義の開始時に指示する。

## 【参考文献】

必要に応じて随時紹介するが、下記の書籍も参考文献として掲げておく。

安部悦生著 『経営史（第2版）』 日本経済新聞社、 2010年。  
鈴木良隆他著 『ビジネスの歴史』 有斐閣、 2004年。

科目名： 経営組織論

担当教員： 井藤 正信(ITO Masanobu)

### 【授業の紹介】

本講義は経営組織とは何かを理解することから出発する。組織といっても、対象はいわゆる一般組織ではなく、経営組織という以上、企業組織に限定する。そのため、企業とは何かという前提を理解しておく必要がある。そうした理解を前提として、組織論の創始者であるC.I.バーナードの組織についての定義からはじまり、いくつかの組織理論について説明する。そして、続いて現実の企業ではどのような組織が存在しているかを論じ、それらの長所や短所の理解に努める。一見すると、組織論は難しいように思われているが、本講義ではできるだけ実例を多く紹介し、やさしく解説することによって学位授与方針にかなうように受講生の理解を深めていきたい。

### 【到達目標】

経営組織に関する基本的な知識を有する。

より具体的に言えば、経営組織について基本的なことを理解し、説明できる。

経営組織で用いられるキータムについて理解している。

本授業で得られた知見によって社会や組織の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。

### 【授業計画】

教員のスケジュール上の都合や進度との関係によって変更の可能性も一部ある。

第1回 ガイダンス 教員の自己紹介と2回目以降の授業予定を簡潔に説明する。また、期末試験と評価方法について説明する。

第2回 経営組織の対象について 企業とは

第3回 経営組織の対象について 企業とは

第4回 経営組織論の理論的検討

第5回 アメリカにおける組織論の発展

第6回 古典的組織論 小テスト 解説と質問

第7回 近代的組織論

第8回 バーナード理論について理解を深める

第9回 小テスト 質問 ディスカッション

第10回 日本の企業組織の発展

第11回 事業部制

第12回 企業の水平的統合

第13回 企業の垂直的統合

第14回 日本における企業再編 小テスト 質問 ディスカッション

第15回 第14回までの講義内容の復習とまとめ まとめでは、重点内容を整理するとともに、専門用語の理解の確認に努める。

### 【授業時間外の学習】

経営組織論の入門テキストをあらかじめ読んでおき、授業に備えること。そのために、予習を2時間ほどすることが望ましい。もちろん、復習も同程度の時間をかけることが望ましい。

### 【成績の評価】

授業中に課した小テストや質疑応答についての評価(40%)と期末試験の成績(60%)とをあわせて総合的に評価する。なお、期末試験では、試験終了後に模範解答を提示し、内容の解説を行う。また、他の経営関連科目を受講する場合に本科目で得た知見を活用してもらいたい。

### 【使用テキスト】

基礎コース経営学 第3版 著者 小松章 出版社 新世社(経営管理論と同じテキストを使用する)

### 【参考文献】

C.I.バーナード『経営者の役割』、ダイヤモンド社

科目名： 経営戦略論

担当教員： 植木 英治(UEKI Eiji)

### 【授業の紹介】

経営戦略論は、企業が競争に勝ち、全体として長期的に成長し発展するための方策の研究を目指している。この分野の研究は、近年急速に進展して新しい戦略手法が次々と開発され、その内容がダイナミックに充実してきている。この授業では、戦略コンセプトの理論的発展、経営戦略の基本的フレームワークおよび最新の戦略手法について解説する。この授業は、学士(経営学)の学位を授与するために必要な経営の専門的知識を修得し、それを組織において適切に活用できるように計画されている。

### 【到達目標】

経営戦略の対象によって社会、企業、事業、機能の4つの階層を区別できる。経営戦略策定に当たり、企業におけるミッション、理念、ビジョンの重要性が理解できる。企業が置かれているマクロとミクロ環境情勢の分析ができる。自社の資源や能力の分析ができる。前2つの分析をマッチングさせることによって事業領域の設定ができる。ギャップ分析を通じて戦略案を創出・選択ができる。自社の製品と市場の組み合わせから取るべく戦略を考えることができる。5つの競争要因の中でどの競争戦略を採ることによって優位になるかを判断できる。製品ポートフォリオ・マトリックスを用いて自社事業の状況の把握と採るべき戦略が選択できる。経営資源の質と量の差にもとづいた競争上の地位に相応しい戦略が構想できる。等々を目標としている。

### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション(講義の概要、課題レポートの書き方、成績評価の仕方)
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 戦略概念の発展
- 第4回 戦略策定と実行のプロセス
- 第5回 経営戦略の階層
- 第6回 戦略展開のベクトル
- 第7回 多角化戦略
- 第8回 製品ポートフォリオ戦略
- 第9回 生き残り戦略
- 第10回 競争戦略と競争地位別戦略
- 第11回 資源ベース戦略
- 第12回 イノベーション戦略
- 第13回 グローバル戦略とブルーオーシャン戦略
- 第14回 M & A戦略
- 第15回 サマリー(期末試験の要領、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々)

### 【授業時間外の学習】

経営戦略に関する最近の動向や理論について、現在話題となっている事柄を4つ課題としてを与えるので、それらを文献やインターネット等で資料を3つ以上調べ、それらを比較・検討してまとめ、指示した書式で課題レポートを作成して提出する。すべての課題レポートは、期末試験前日までに合格して終了しておかなければならない。

### 【成績の評価】

期末試験の得点(80%)、課題レポートの内容と提出時期(15%)、および講義に対する質疑応答(5%)などによって評価する。なお、4つの課題レポートは、それぞれ提出から2週間以内にはチェックするので、不合格の場合は何度でも訂正と再提出が求められる。各レポートと質疑に対する評価コメントは、その都度学生に直接伝えてフィードバックする。

### 【使用テキスト】

講義の開始時に指示する。

### 【参考文献】

必要に応じて随時紹介するが、下記の書籍を参考文献の例として掲げておく。

- 手塚貞治著 『経営戦略の基本がイチから身につく本(ビジュアル改訂版)』 すばる舎、2012年。
- 福澤英弘著 『図解で学ぶビジネス理論(戦略編)』 日本能率協会マネジメントセンター、2010年。

科目名： 労務管理論

担当教員： 井藤 正信(ITO Masanobu)

### 【授業の紹介】

本講義では労務管理の概要を簡潔に説明するとともに、現実の労務管理の実態を採用管理から始まり、退職管理までを概観する。特に、現在の日本企業における労務管理については、少子高齢化が進み、労務管理の重要性が増してきている現状を分析するとともに、若年者の雇用問題や中高年の早期退職問題などに焦点をあて、学位授与方針にかなうよう受講者の理解を深めたい。

### 【到達目標】

労務管理、人事管理、人的資源管理の基本的なことについて理解しており、説明することもできる。企業等への就職したときに、この授業で得た知識を活かすことができる。

### 【授業計画】

教員のスケジュール上の都合や進度との関係によって変更の可能性も一部ある。

第1回 ガイダンス 教員の自己紹介と2回目以降の授業予定を簡潔に説明する。また、期末試験と評価方法について説明する

第2回 労務管理とは何か、そしてその機能について学ぶ

第3回 採用管理について

第4回 配置と異動

第5回 定年制 高齢者雇用と若年雇用

第6回 雇用管理について 小テスト

第7回 社内格付けと昇進管理

第8回 人事考課とは 職能資格制度

第9回 賃金管理 質問 ディスカッション

第10回 労働時間管理

第11回 能力開発

第12回 日本企業における人事・労務管理の実際

第13回 正規労働と非正規労働

第14回 労使関係管理

第15回 小テスト 質問 ディスカッション 第14回までに学んできたことを中心に出題します。そして、解答を解説するとともに、学生からの意見を聞き、できれば、ディスカッションも行いたい。

### 【授業時間外の学習】

労務管理関係の入門書を前もって読んでおいてほしい。また、日々の新聞などで話題になっている雇用問題などに  
関する記事を読むように努めてもらいたい。

### 【成績の評価】

授業中に実施する小テスト(40%)と期末に実施する期末試験(60%)とをあわせて最終評価とする。なお、期末試験では、解答例を示し、要点について解説する。

### 【使用テキスト】

『新しい人事労務管理』第5版、佐藤博樹他著、有斐閣 定価2000円+税

### 【参考文献】

労務管理・人事管理・人的資源管理の入門書(例えば、図解でわかる人事・労務の知識 - 第3版 -、著者中田孝成など)であれば、何でも参考にしてほしい

科目名： 国際経営論

担当教員： 岡本 丈彦(OKAMOTO Takehiko),井藤 正信(ITO Masanobu)

### 【授業の紹介】

1990年代以降のグローバル化によって、「企業」を取り巻くビジネス環境は大きく変化している。現代企業が濁流のようなビジネス環境下において、生き残るためにはグローバル競争戦略が必要不可欠である。このような戦略はどのように立案され、構築され、そして、実行に移されるのであろうか。本講義においては、グローバル化の時代における国際ビジネスの環境変化を講義するとともに、グローバル競争戦略についても検討を行う。その上で、国際ビジネスの基礎理論を概観するとともに、グローバルなマネジメントに必要な不可欠である異文化マネジメントやグローバル情報ネットワークについても検討を行う。そして、新興市場と日本企業の関係について議論を行うとともに、今後の新しい国際ビジネスのモデルについて講義を行う。

本講義は、ディプロマポリシーの「グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通してその発展に貢献できること」と関連した科目である。

### 【到達目標】

本講義においては、次の事項を到達目標とする。

現在の国際ビジネスがグローバル時代の到来によって、どのような変化があるのかについて把握する。現代企業のグローバル競争戦略が、どのように立案され、それが構築され、実行に移されるのかを理解する。

国際的人的資源管理について、グローバル時代においてどのような重要性を持つのかということ理解する。

異文化マネジメントにおける異文化シナジーと異文化コミュニケーションの重要性を把握する。

本講義において重視している基礎力育成項目は、次のとおりである。

- ・多国籍企業を批判的に検討するという意味での、クリティカル思考力の育成
- ・コンセプチュアルスキルの育成
- ・国際理解・多文化理解能力の育成

### 【授業計画】

- |      |               |                                 |
|------|---------------|---------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション     | 確認テスト、講義目標、講義概要、成績評価の説明         |
| 第2回  | 国際ビジネスの概要     | - グローバル時代の到来と事業環境・国際取引の変化 -     |
| 第3回  | 国際ビジネスの歴史     | - グローバル展開と高度情報技術産業による世界支配 -     |
| 第4回  | 多国籍企業と国家      | - 多国籍企業と国家の関係の本質 -              |
| 第5回  | グローバル競争戦略     | - グローバル戦略の立案と構築 -               |
| 第6回  | 国際戦略提携とM&A    | - 国際戦略提携のマネジメントと急増するM&A -       |
| 第7回  | 国際生産システム      | - 悲観論と再評価、生産システムの本質 -           |
| 第8回  | トランスナショナル組織   | - 多国籍企業の戦略課題と組織構造の変化 -          |
| 第9回  | 国際的人的資源管理     | - 企業のグローバル化と国際的人的資源管理(IHRM) -   |
| 第10回 | 異文化マネジメント     | - 異文化シナジーと異文化コミュニケーション -        |
| 第11回 | グローバル情報ネットワーク | - 国際ビジネスに対するITとICTのインパクト -      |
| 第12回 | サービス化と国際ビジネス  | - 製造企業間のグローバル化とサービス化 -          |
| 第13回 | 新興市場と日本企業     | - ビジネス立地としての新興市場 -              |
| 第14回 | 国際ビジネスの進化・共通化 | - 5Eと5Cを基準とする新しい国際ビジネス・モデルの構築 - |
| 第15回 | これまでのまとめ      | (期末試験の要領、課題レポートの完了確認、質疑応答、等々)   |

### 【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、使用テキストの該当ページを読んでおくこと。また、課題レポートを2回課す。講義中に明示する所定の形式に従い作成の上、所定の場所に必ず期限を守り提出のこと。少なくとも片方のレポートを提出し、それが合格しなれば、試験を受けることができない。

所定の形式に従わないレポートは、採点の対象としない。

期日を過ぎたレポートは原則として受け取らない。

レポートの採点基準は、講義中に3点～5点明示する。

### 【成績の評価】

試験の得点(60%)、課題レポートの内容(30%)、そして、授業の積極性と態度(10%)で評価を行う。

課題レポートについては、採点基準を講義の中で明示し、それに従って採点を行い、希望する学生には点数を開示する。また、優秀なレポートについては講義の最中にフィールドワークを行う。そして、試験の得点については、希望する学生に提示する。

### 【使用テキスト】

江夏健一・桑名義晴編著 IBI国際ビジネス研究センター著 [2012], 『理論とケースで学ぶ 国際ビジネス』 三訂版 同文館出版 3,000円+税。

【参考文献】

菊澤研宗 [2004], 『比較コーポレート・ガバナンス論 組織の経済学アプローチ』 有斐閣  
3,300円+税。

海道ノブチカ・風間信隆編著 [2009], 『コーポレート・ガバナンスと経営学』 ミネルヴァ書房 2,800  
円+税。



科目名： ファイナンス論

担当教員： 鈴江 一恵(SUZUE Kazue)

### 【授業の紹介】

本科目では、「ファイナンス入門」の応用・実践編ともいうべき、生活者・職業人として必要とされる生活設計のお金に関する知識（金融商品、保険、不動産、税金、年金、相続など）の整理をするとともに、生活設計上の課題の解決方法を学習します。授業の進め方は、教員からの情報提供に加え、ケーススタディにより考察力を養い、さらにケースメソッド授業の討議を通して分析力や意思決定力などを育成することに重点を置きます。

また、本科目ではFP（ファイナンシャル・プランナー）\*の資格取得に向けて、随時、問題演習も実施しますので資格を取得したい方には特に受講をお勧めします。

なお、本科目は「ファイナンス入門」を受講していない学生であっても、復習をしながら進めますので、受講は可能です。

\*FPは、金融商品、保険、不動産、税金、年金、相続など幅広い知識をもって包括的な視点で、各分野の専門家の協力も得ながら顧客にアドバイスを行う「ライフプランの実現を手助けする専門家」です。

### 【到達目標】

本科目では、生活設計に関する知識の定着と生活設計上の課題探求・解決能力の習得をめざします。また、国家資格「3級FP技能士」資格取得のための実戦力の養成、「2級FP技能士」資格取得のための基礎力の養成を図ります。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライフプランニング（プランニングの手法、資金計画）
- 第3回 ライフプランニング（社会保険制度）
- 第4回 リスク管理（リスクマネジメント、生命保険の活用）
- 第5回 リスク管理（損害保険の活用）
- 第6回 金融資産運用（金融経済、金融商品の特徴）
- 第7回 金融資産運用（金融資産の運用）
- 第8回 ケースメソッド《討議型授業》
- 第9回 タックスプランニング（税の体系、所得税のしくみ）
- 第10回 タックスプランニング（所得税の計算、住民税のしくみ）
- 第11回 不動産運用（不動産取引）
- 第12回 不動産運用（不動産と税、不動産の有効活用）
- 第13回 相続（贈与・相続の関連法規）
- 第14回 相続（相続税のしくみ）
- 第15回 まとめ（期末試験対策）

### 【授業時間外の学習】

毎回、授業の終わりに次回授業の範囲を提示しますので関連情報を収集しておいてください。また、習得した知識をもとに課題の解決策を考えるように心がけるほか、期末試験対策として授業で紹介する練習問題などで復習をすることが必要です。なお、FP技能検定の受験希望者は授業の復習と同時に過去問題に取り組むことをお勧めします。

### 【成績の評価】

受講態度（40%）、レポート（10%）、期末試験（50%）により評価します。

なお、レポートについては、後日の授業で模範解答例を紹介します。

また、「FP技能検定」の受験状況も評価します。

詳細は、最初の授業で説明しますので必ず出席してください。

### 【使用テキスト】

最初の授業で指示します。その他、適宜プリントを配布します。

### 【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 営業論

担当教員： 丸山 豊史(MARUYAMA Shigefumi)

### 【授業の紹介】

この授業は商学系に属する上級科目であり、特にディプロマポリシーの1「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができること」に強く結びつく科目である。営業とは、営利（利潤の獲得と言い換えうる）を目的として、一定の業務を反復かつ継続して行うことをいう。また、「営業」という言葉は、個々の営利行為ではなく、企業活動に用いられている設備や製造された商品、債権・債務といった資産やその運用方法など企業活動全体を指す言葉として用いられることもある。本授業では以上のような各種の定義のうち、営利を目的とした商品やサービスの販売活動を営業と定義する。したがって「営業」とは商品やサービスを販売することによって、顧客に利便性を提供し、その対価としての利潤を獲得することである。商品やサービスの営業を行う上では、どのような営業組織とするか、どのような戦略をとるか、営業活動の管理項目としては何が大切か、営業プロセス管理はどのように行うか、営業予算の作成と実績管理など多くのことを知らないと、お客様に喜ばれ、利益を上げることは出来ない。さらに、近年は、インターネットの普及により特定の企業による情報の占有が出来なくなり、顧客が主役の時代であるといわれるようになってきた。加えてウォークマンやi-phoneのような画期的な商品は次々に出るわけではない。多くの商品は少しだけ他の類似商品より優れているに過ぎない。さらにカリスマユーザーや口コミ販売等の流行が示すようにインターネットやWebの進歩により、顧客も情報発信が出来るようになり、企業と同じレベルの情報を持つことも可能になった。このような市場環境における営業の実際についても講義する。なお、この講義受講はビジネス実務概論、消費者行動論、マーケティング論、簿記演習、簿記演習の履修を前提とする。

### 【到達目標】

営業職の社員はターゲット市場の選定、マスプロモーション、引き合い対応、受注、納品、代金回収、アフターサービスといろいろな業務を行っている。そこで、営業活動においてはどのような業務を行なっているかを具体的にイメージする力をつける  
営業活動における競合への対応をどのようにするのか、商品の差異化とは何か、ブームはどのように発生し、成長・消滅していくのかなど営業職社員としての基礎的知識を身に付ける  
業界ごとの営業活動の特徴を理解する  
販売士検定2級に合格する等、より具体的な知識を身に付けることをめざしてほしい  
「大学時代に身につけたい12の力」のうち、特に自己理解能力、コンセプチュアルスキル、プレゼンテーションのための知識の習得を目指す

### 【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 大きく変わる企業像
- 第3回 営業と営業の関連組織
- 第4回 営業管理の展開
- 第5回 営業活動の管理項目（必要な能力、心構え）
- 第6回 営業戦略
- 第7回 商品開発戦略のポイント
- 第8回 市場顧客分析、販売ルート
- 第9回 Product Life Cycle
- 第10回 営業プロセスと営業情報の収集・分析
- 第11回 直販・販売提携、管理帳票
- 第12回 提案営業・プロポ-ザル
- 第13回 営業予算の作り方（販売額、経費管理）
- 第14回 営業実績フォロー
- 第15回 これまでの講義の復習及び質疑応答・今後の営業のあり方

### 【授業時間外の学習】

事前に講義に関連する参考書を読んだ上で、事前配布した資料に関して予習を行い、質問点・疑問点を明確にして授業にのぞむこと  
授業中に行う分析のための事前調査を、インターネット等を活用して行うこと  
学期中にミニ・レポートを課す。講義中のノートを必ず読み返し、レポート作成の参考とすること  
ビジネスに必要な信頼関係がどのようにして構築されていくのか、自身の生活の中で観察してみてほしい

### 【成績の評価】

毎回の講義で積極性を評価（30%）する。また、ミニ・レポート（50%）および期末レポート（20%）を作成する  
この受講態度および提出レポートにより、総合的に評価する  
なお、期末レポートを提出しない者、出席が10日に満たない者は不合格とする  
また、遅刻もしくは早退2回で、欠席1回とする

**【使用テキスト】**

テキストは特に指示せず、授業ごとに必要な資料を事前もしくは当日プリントして配布する

**【参考文献】**

中野明 『ピーター・ドラッカーのマネジメントがわかる本』 [2011] (秀和システム)

藤屋伸二 『ドラッカー経営のつぼがよくわかる本』 [2009] (秀和システム)

その他の参考文献・参考図書は授業時に紹介する

科目名： 財務管理論

担当教員： 井上 信一(INOUE Shin'ichi)

### 【授業の紹介】

本学部のデプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに則り、社会人の養成と地域活性化に必要な人材（社会人）の育成を目標にし、そのために必要な、企業経営コースにおけるコーポレート・ファイナンスの専門的知識の習得及び実践力の養成を目的にします。

企業活動は、「人、モノ、カネ、情報」からなりたっていますが、この授業ではカネ（財務）の面に焦点をあて、その調達と運用の基礎的理論とその技法について紹介、解説します。特に企業財務の基礎理論、歴史的発展過程と最近の動向及び日本企業の実態の紹介を中心に説明します。経営学、会計学、ファイナンスとの関係も深いので、それらの講義科目について基礎的理解があることが望めます。

### 【到達目標】

学生のみなさんが、毎週予習と講義への積極的取り組み、および復習を繰り返すことにより、以下の専門知識が理解・習得できることを目標にしています。講義内容はできるだけ具体的な最近の事例紹介などを織り込みながら、平易に説明することを心がけます。

1. 企業経営と財務管理の関係、および意義と重要性を理解でき説明できる。
2. 資金調達の意義、方法を理解でき説明できる。
3. 企業価値創造と自己金融の内容について理解でき説明できる。
4. 日本企業の財務管理の動向とその特徴について理解でき説明できる。

### 【授業計画】

- 第1回 財務管理とは - 講義への誘い（財務管理とは何か）
- 第2回 財務管理の舞台（1）企業形態と責任制度
- 第3回 財務管理の舞台（2）資本集中と支配集中
- 第4回 株主資本の調達（1）増資の方法
- 第5回 株主資本の調達（2）株式の多様化と配当政策
- 第6回 EVAと機関投資家
- 第7回 自己金融（1）利益の留保
- 第8回 自己金融（2）減価償却と長期引当金
- 第9回 社債資本の調達
- 第10回 借入金の調達
- 第11回 長期資本管理・短期資本管理
- 第12回 キャッシュフローと資金の効率化
- 第13回 証券化
- 第14回 デリバティブ
- 第15回 これまでのまとめと最近の動向

### 【授業時間外の学習】

学生のみなさんが講義の開始時に、教科書とノート（必須）を購入して、日々コツコツと予習、講義の整理、復習をすることが大切です。「実践は発明の母」です。また関連の授業科目、参考書、新聞、TV番組、インターネットなどで、「ファイナンス（財務、資金）」に関係する内容をよく読み、考え、レポート、口頭で表現できることが大切です。最初の講義で、ノートの取り方、予習、復習の仕方などについても説明します。それが学生諸君の社会人としての「学生力（考え方と技法：実力）」の養成につながり、就職活動にもその専門性が活かせる（就活力）と思われると思います。なお授業の前後、メールによる質問（オフィスアワー）についても、随時受け付けますので、気軽に相談ください。

### 【成績の評価】

講義中の小テスト、クイズ、レポート、ノート提出（合計50%）、期末テスト（50%）により評価します。なお学生へのフィードバックの方法は、授業での解説とともに、コメントをつけて返却します。

### 【使用テキスト】

坂本恒夫編著『テキスト 財務管理論（第5版）』中央経済社、2015年。なお必要に応じて関係資料なども配布します。

### 【参考文献】

学生からの相談および必要に応じて、随時紹介します。

科目名： スモールビジネス論

担当教員： 浮穴 学慈(UKENA Satoshige), 岡本 丈彦(OKAMOTO Takehiko)

### 【授業の紹介】

この授業では、個人経営の飲食店や洋服店、コンビニなどのフランチャイズ店舗を「スモールビジネス」として捉え、これらの店舗運営に欠かせない在庫管理、損益計算、売上予想などについて学習します。さらに、「データに基づく経営」を実践するトレーニングのため、ビジネスゲームを活用します。ビジネスゲームでは、他店舗と競争しつつ、より優れた経営を目指してグループで店舗運営に取り組みます。

受講にあたって、これまでに大学祭などのイベントにおいて模擬店の運営をした経験があるか、もしくはこの学期に模擬店を出店予定であることが好ましいと考えます。

学位授与の方針との結び付きとして、特に「組織において経営および情報に関する専門知識を適切に活用する能力」「多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組む能力」の育成に関わっていると考えています。また、高等学校教諭一種免許状(商業)取得のための選択科目です。

### 【到達目標】

1. データから企業の現状を読み取ることができる
2. データを分析して、将来の予測を立てることができる
3. 市場のメカニズムを推測し、最大の利益を追求することができる
4. 他者の戦略を推測し、適切な対策を取ることができる

この授業で重視している基礎力育成項目は、次のとおりです。

- ・データ分析による、数量把握力の育成
- ・グループ内の意思決定による、ディスカッション能力の育成
- ・競合グループの行動データから相手の意図・戦略を読み取る、インテリジェンス能力の育成  
(コミュニケーション能力の「伝える力」「受取る力」のうち「受取る力」を深化した「行間を読む力」に該当)

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 データの可視化
- 第3回 データ分析(1)：近似曲線や移動平均を使って傾向を把握する
- 第4回 データ分析(2)：管理図を使って異常を早期発見する
- 第5回 データ分析(3)：売上データから天候別の集計をする
- 第6回 データ分析(4)：最も利益の出る仕入や在庫の数量を読み取る(新聞売り子問題)
- 第7回 コンビニおにぎりゲーム(1)：リハーサル・作戦会議
- 第8回 コンビニおにぎりゲーム(2)：ゲームセッション
- 第9回 コンビニおにぎりゲーム(3)：グループ発表
- 第10回 ベーカリーゲーム(1)：リハーサル・作戦会議
- 第11回 ベーカリーゲーム(2)：ゲームセッション1
- 第12回 データ分析(5)：損益分岐点、需要曲線
- 第13回 ベーカリーゲーム(3)：ゲームセッション2
- 第14回 ベーカリーゲーム(4)：グループ発表
- 第15回 総括：レポートについての解説

### 【授業時間外の学習】

グループでの話し合いをもとにした経営戦略の策定、グループ発表の準備、レポート課題の作成を必要とする。

### 【成績の評価】

グループの意思決定への参加(30%)、発表資料作成および発表の実践(20%)、ワーク(20%)、レポート課題(30%)。

グループ活動によりゲーム内の店舗運営を行うため、話し合いに参加しない者や欠席が3回を超える者は単位を認定しない。

発表の実践およびレポート課題については各自の得点を回答し、最良のものについて解説を行うことで、フィードバックを行う。ワークについては、机間巡視の際などに随時フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

資料を配布する。

**【参考文献】**

笠井清志「コンビニのしくみ」（同文館出版）ISBN978-4495577018，¥1,728．

大久保一彦「成功する小さな飲食店の始め方」（西東社）ISBN978-4791613816，¥1,404．

科目名： 起業家論

担当教員： 丸山 豊史(MARUYAMA Shigefumi)

### 【授業の紹介】

この授業は事業創造系に属する中級科目であり、特にディプロマポリシーの2「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組めること」と5「グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通してその発展に貢献できること」に強く結びつく科目である。授業の進め方としてはインターネットを活用した企業調査や企業分析を行い、レポートにまとめた後、発表することを中心としている。

毎回の授業では、日本で著名な起業家・創業者の事例や最近創業された起業事例に基づきながら、着眼点のユニークさや新規事業展開のあり方を学ぶ。また、受講生の中にある起業家に対するイメージと実態のギャップを埋めてもらうことも大きな目的である。たとえば「起業家＝お金持ち＝成功者」という単純な図式に疑問を投げかけられるよう、授業を展開していく。この授業で起業家のリーダーシップを学び、3年次開講の起業関連科目への導入とする。なお、授業で取り上げる企業はとりあえず授業計画に記した。しかし分析する企業はこれらの企業にこだわらず君たちと相談して決定する。過去には 本田宗一郎と藤沢武夫（ホンダ）、松下幸之助（パナソニック）、井深 大（ソニー）、稲盛和夫（京セラ）、宅急便（小倉昌男）、飯田 亮（セコム）、柳井 正（ファースト・リテイリング）、再春館製薬、山田 昇（ヤマダ電機）、（ヤマト運輸）、安部修仁（吉野家ホールディングス）、日清食品（安藤百福）、香川手袋、丸亀うちわ等の分析を行った。このような毎回与えられた企業に関する調査・分析・討議を通して起業の1側面を明確にする。また、企業分析の一環として対象とする企業に関するレポートの提出と発表を行う。なお、この授業は企業調査入門、中小企業家経営論の受講を前提とする。

### 【到達目標】

与えられたテーマに沿って情報を収集し、その情報をもとに討議を行ない、結論とか方針をまとめることができる

起業や新規事業展開の面白さ、難しさを理解することが出来る

リーダーシップについて自分なりの考え方を持つことができる

企業家の社会における役割を理解する等、起業に関する知識が身につく

「大学時代に身につけたい12の力」のうち、特にクリティカル思考、調査能力、ICTリテラシーを身につける

### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 起業家・ベンチャー企業とは
- 第3回 スタートアップス
- 第4回 起業家分析その1 豊田喜一郎
- 第5回 起業分析その1 トヨタ自動車
- 第6回 起業家分析その2 柳井 正（ユニクロ）
- 第7回 起業分析その3 アイリスオーヤマ
- 第8回 起業分析その4 白鳥の手袋
- 第9回 起業分析その5 農業の会社化 6次産業
- 第10回 起業分析その6 池内タオル
- 第11回 起業分析その7 クラタペッパー
- 第12回 起業分析その8 LCC
- 第13回 起業分析その9 cyberdyne
- 第14回 若者起業
- 第15回 これまでの講義の復習及び質疑応答・今後の起業家のあり方

### 【授業時間外の学習】

授業前に必ず該当する企業の事業内容をホームページ等で把握し、その企業が創業後、どのような過程を経て現在の事業体制になったのか調べる

事前に講義に関連する参考書を読んだ上で、事前説明した事項に関して予習を行い、質問点・疑問点を明確にして授業にのぞむ

授業中に行う分析のための事前調査を、インターネット等を活用して行う

ビジネスに必要な信頼関係がどのようにして構築されていくのか、自身の生活の中で観察してみたい

### 【成績の評価】

授業では、君たちが調査した企業に関して発表してもらう。このような毎回の講義での積極性を評価（30%）する

ミニ・レポート（50%）および発表（20%）に基づき総合的に評価する

授業中の質問やグループ代表としての積極的な発言を高く評価し、総合評価に加える

出席が10日に満たない者は不合格とする。

また、遅刻もしくは早退2回で欠席1回とする。

**【使用テキスト】**

必要な資料はそのつど、事前もしくは当日配布する

**【参考文献】**

取り上げた企業を紹介する本が多数出版されている

『メタルウォーズ』谷口 正次（東洋経済新聞社）2008年

『ガイアの夜明け』テレビ東京報道局編（日本経済新聞社）2004年～



科目名：ベンチャー経営論

担当教員：丸山 豊史(MARUYAMA Shigefumi)

### 【授業の紹介】

この授業は事業創造系に属する上級科目であり、特にディプロマポリシーの5「グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通してその発展に貢献できること」に強く結びつく科目である。

この授業はベンチャー経営に関する事項をProject Based Learning手法（以下PBLと略す）を用いて進める講義である。産業界では新入社員教育の方法として、On the Job Training（以下OJTと略す）が幅広く活用されている。本授業のPBLはこのOJTで使われている手法を幅広く取り入れている。

授業は、3つのステップに分けて進む。第1ステップでは、ベンチャー企業とは何か、ベンチャー企業の必要性和ベンチャー企業の起業、成長に関する基本概念と原理を分析する。

第2ステップはこの講義の中心をなすものであり、ココナッツ砂糖等商品の輸入業務の詳細分析と日本国内での商品販売ビジネスの実際を分析する。

第3ステップでは、第2ステップまでに修得した知識と作成した資料を活用して、商品の輸入販売を行うビジネスのモデルを明確にする。

なお、この授業は中小企業家経営論、スモールビジネス論、起業家論、中小企業論の受講を前提とする。

### 【到達目標】

ベンチャー経営に関する基本概念と原理が理解できる

新しいビジネスの立ち上げを経験する

ビジネスモデルとはどのようなものかを理解する

起業を自ら考えることができるようになる

「大学時代に身につけたい12の力」のうち、特に調査能力、ICTリテラシー、会計情報把握能力を身につける

### 【授業計画】

第1回 イントロダクション

第2回 ベンチャー企業の定義と必要性

第3回 ベンチャー企業の類型

第4回 ココナッツ砂糖のパッケージ及びパッケージデザイン調査

第5回 ココナッツ砂糖の品質及び価格調査

第6回 ココナッツ砂糖輸入時のルール調査

第7回 ココナッツ砂糖輸入ルート確認と輸入に伴う問題点の抽出

第8回 ココナッツ砂糖の原価構成の分析

第9回 商品輸入ビジネスの課題とビジネスモデル取りまとめ

第10回 商店街の活性化策検討、新規ビジネス事例調査その1

第11回 商店街の活性化策検討、新規ビジネス事例調査その2

第12回 新規ビジネスの可能性調査

第13回 ビジネスプラン検討

第14回 ビジネスプラン作成

第15回 これまでの講義の復習及び質疑応答・今後のベンチャー経営のあり方

### 【授業時間外の学習】

事前に講義に関連する参考書を読んだり、関連知識をインターネットで調べた上で、事前配布した資料に関して予習を行い、質問点・疑問点を明確にして授業にのぞむこと。

授業中に行う分析のための事前調査を、インターネット等を活用して行うこと。

学期中にミニ・レポートを課す。講義中のノートを必ず読み返し、レポート作成の参考とすること。

ビジネスに必要な信頼関係がどのようにして構築されていくのか、自身の生活の中で観察してみたい。

### 【成績の評価】

毎回の講義での積極性を評価する(30%)。また、ミニ・レポート(50%)および期末レポート(20%)を作成する。この受講態度および提出レポートにより前述の割合で評価する。なお、期末レポートを提出しない者、出席が10日に満たない者は不合格とする。また、遅刻もしくは早退2回で欠席1回とする。

### 【使用テキスト】

必要に応じて事前もしくは当日プリントを配布する

### 【参考文献】

参考文献・参考図書は授業時に紹介する

科目名： 商業業態論

担当教員： 末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

社会には、生産活動や消費活動ばかりでなく、生産と消費をリンクさせる流通活動がある。この流通は、消費生活をするために、社会的に必要不可欠な働きであり、その役割は、主として卸売業や小売業が担っている。本授業では、この「流通」についての基礎的な仕組みを学習するとともに、流通の重要な役割を担っている小売業の基本的知識や役割、店舗形態別小売業の役割、更にはチェーンストアや商業集積の基本的役割等について学習する。また、本授業を通じて流通業界で唯一の公的資格である「3級販売士」取得をめざす。この検定試験は5科目からなっており、そのうちの1科目「小売業の類型」に関する授業である。関連科目である「商品開発論」「販売技術論」「マーケティング論」「販売管理論」や課外講座（検定受験支援講座）を併せて受講することが望ましい。

学位授与の方針とは、特に「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 身近なところから社会経済状況が理解できる。
2. 販売士検定科目のうち、「小売業の類型」について3級レベルの能力の修得をめざす。

### 【授業計画】

- |      |                          |                      |
|------|--------------------------|----------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                | 流通とは何か               |
| 第2回  | 流通の役割と構造変化               |                      |
| 第3回  | 小売業の機能と役割                |                      |
| 第4回  | 流通の国際化                   |                      |
| 第5回  | 流通経路の基本知識                | （食品、医薬品等）            |
| 第6回  | 流通経路の基本知識                | （食料品、化粧品等）           |
| 第7回  | 卸売業・製造業の機能               |                      |
| 第8回  | 組織小売業の種類と特徴              |                      |
| 第9回  | 小売業の販売形態                 |                      |
| 第10回 | 小売業の店舗形態                 | （小売業態、専門店、百貨店等）      |
| 第11回 | 小売業の店舗形態                 | （スーパーマーケット、ドラッグストア等） |
| 第12回 | 小売業の店舗形態                 | （コンビニエンスストア、その他の店舗）  |
| 第13回 | チェーンストアの基本的役割            |                      |
| 第14回 | 商業集積の基本的役割               |                      |
| 第15回 | これまでの講義の復習及び質疑応答、商業業態の今後 |                      |

### 【授業時間外の学習】

TV・新聞等の社会経済情報に常に目を向けること。また、日頃利用する小売店について授業内容を基にその特徴や機能をくみ取ること。実際の小売りの現場を見て授業内容と一致させることが、知識を身につける近道である。更に、過去の問題を解いて知識を自分のものにする。

### 【成績の評価】

評価は、受講態度（40%）、ミニレポート及びミニテスト（20%）、期末レポート（40%）の各項目（割合）により行う。その際、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、受講生のレポート等については講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～』（キャリアック）小売業の類型を使用する。当該ハンドブックは「商品開発論」「販売技術論」「マーケティング論」「販売管理論」の各授業と共通なので、セット購入を勧める。セット価格6,480円

### 【参考文献】

適宜指示する。

科目名： 商品開発論

担当教員： 大西 理之(ONISHI Takayuki)

### 【授業の紹介】

現在の流通業界を取り巻く環境は、少子高齢化やライフスタイルの変化をはじめ、IT（情報技術）化の急速な進展、流通外資の相次ぐ参入などにより、急激かつ大きく変化している。本授業では、多様化・高度化した顧客のニーズを的確に捉えた、商品の開発や仕入、販売、物流等について学習する。

また、授業で学んだ理論が社会で活用できるよう、過去問題の演習等を通じ実践力を養う。

本授業は、リテールマーケティング（販売士）3級検定試験の5科目のうちの1科目「マーチャンダイジング」に関する授業である。関連科目「商業業態論」「販売技術論」「マーケティング論」「販売管理論」や課外講座（検定受験支援講座）を併せて受講すること。

学位授与の方針として、特に「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 流通業界におけるマーチャンダイジングの基礎が理解できる
2. 流通業界で唯一の公的資格である「3級販売士」合格水準の知識を有し活用できる

### 【授業計画】

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション（マーチャンダイジングとは）              |
| 第2回  | 商品の基本                                |
| 第3回  | マーチャンダイジングの基本                        |
| 第4回  | コンビニエンスストア・チェーンにみるマーチャンダイジングの主な機能    |
| 第5回  | 商品計画の基本                              |
| 第6回  | 店舗形態別にみた商品構成                         |
| 第7回  | 販売計画策定並びに仕入計画策定の基本知識                 |
| 第8回  | 棚割とディスプレイ・物流の基本知識                    |
| 第9回  | 価格設定の基本（価格の設定要因と価格政策）                |
| 第10回 | 売価設定と利益構造の基本                         |
| 第11回 | 在庫管理の基本                              |
| 第12回 | 在庫データの活用・商品ロスの基本的原因                  |
| 第13回 | 販売管理の基本                              |
| 第14回 | POSシステムによる販売データの活用                   |
| 第15回 | これまでの講義の復習及び質疑応答、これからのマーチャンダイジングについて |

### 【授業時間外の学習】

使用テキストの予習、復習以外に、新聞やニュース等から常に情報収集を行うこと。更に「3級販売士」取得を目指し、過去の問題に積極的に取り組み理解を深めること。

### 【成績の評価】

評価は、受講態度（40%）、ミニレポート（20%）、期末レポート（40%）の各項目（割合）により行う。なお、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、ミニレポート・期末レポート等については、講評のうえフィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～』（キャリアック）マーチャンダイジングを使用する。当該ハンドブックは「商業業態論」「販売技術論」「マーケティング論」「販売管理論」の各授業と共通なので、セット購入を勧める。（セット価格6,480円）

### 【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： 販売技術論

担当教員： 末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

近年、顧客ニーズの多様化、価格競争の激化、IT化の著しい伸展など、流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。このような状況の中で、店を維持・繁栄させるためには、安定した利益を確保するための店舗運営（ストアオペレーション）が重要になる。本授業では、店舗の開店準備、発注、荷受・検収、値付け、補充、売場チェック、チェックアウト時のレジ業務、包装など、ストアオペレーションの基本的役割について学習するとともに、ディスプレイ、ワークスケジュールリング、顧客心理、接客販売技術などについても学習する。また、本授業を通じて流通業界で唯一の公的資格である「3級販売士」取得をめざす。検定試験は5科目からなっており、そのうちの1科目「ストアオペレーション」に関する授業である。関連科目「商業業態論」「商品開発論」「マーケティング論」「販売管理論」や課外講座（検定受験支援講座）を併せて受講することが望ましい。

学位授与の方針とは、特に「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 安定した利益を確保するための店舗運営（ストアオペレーション）が理解できる。
2. 販売士検定科目のうち、「ストアオペレーション」について3級レベルの能力の修得をめざす。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	基本的役割（開店準備の業務等）
第3回	基本的役割（発注、荷受・検収等）
第4回	基本的役割（売場チェック、レジ業務等）
第5回	基本的役割（包装の意義、種類等）
第6回	基本的役割（包装技術）
第7回	ストアオペレーションのまとめ
第8回	ディスプレイ（目的と役割）
第9回	ディスプレイ（基本的パターン 陳列器具）
第10回	ディスプレイ（基本的パターン 販売方法）
第11回	ディスプレイ（ファッション衣料品）
第12回	ワークスケジュールリング
第13回	顧客の購買心理
第14回	接客販売技術
第15回	これまでの講義の復習及び質疑応答、販売技術の今後

### 【授業時間外の学習】

日頃利用する小売店について、授業内容を基にストアオペレーションの要領や特徴をくみ取ること。実際の小売りの現場を見て授業内容と一致させることが、知識を身につける近道である。また、過去の問題を解いて知識を自分のものにする。

### 【成績の評価】

評価は、受講態度（40%）、ミニレポート及びミニテスト（20%）、期末レポート（40%）の各項目（割合）により行う。その際、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、受講生のレポート等については講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～』（カリアック）ストアオペレーションを使用する。当該ハンドブックは「商業業態論」「商品開発論」「マーケティング論」「販売管理論」の各授業と共通なので、セット購入を勧める。セット価格6,480円

### 【参考文献】

適宜指示する。

科目名： 販売管理論

担当教員： 末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

企業のマネジメントの対象は、ヒト・モノ・カネ・情報である。さらに厳しい環境にある近年は特に法令順守によるリスクマネジメントも重要である。本授業では小売業における法令知識や計数管理（カネ）、職場における人間関係管理（ヒト）、施設管理（モノ）を学ぶことで、流通業の効率的運営に関する知識を身につける。更に、販売員の基本業務の一つである接客の心構え等の学習を通じ、良き社会人としてのマナーの向上にもつなげたいと考えている。また、本授業を通じて流通業界で唯一の公的資格である「3級販売士」取得をめざす。検定試験は5科目からなっており、そのうちの1科目「販売・経営管理」に関する授業である。関連科目「商業業態論」「商品開発論」「販売技術論」「マーケティング論」や課外講座（検定受験支援講座）を併せて受講することが望ましい。学位授与の方針とは、特に「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 流通業におけるマネジメントが理解できる。
2. 販売士検定科目のうち、「販売・経営管理」について3級レベルの能力の修得をめざす。

### 【授業計画】

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                |
| 第2回  | 販売員の基本業務（目的、役割、接客）       |
| 第3回  | 販売員の基本業務（クレーム、返品）        |
| 第4回  | 小売業に関する法令知識（全般）          |
| 第5回  | 小売業に関する法令知識（販売活動）        |
| 第6回  | 小売業に関する法令知識（商品）          |
| 第7回  | 小売業に関する法令知識（販売促進、消費者等）   |
| 第8回  | 小売業に関する法令知識（環境問題）        |
| 第9回  | 販売事務                     |
| 第10回 | 計数管理                     |
| 第11回 | 職場の人間関係                  |
| 第12回 | コミュニケーション                |
| 第13回 | 店舗管理の基本知識                |
| 第14回 | 店舗施設の保守・管理               |
| 第15回 | これまでの講義の復習及び質疑応答、販売管理の今後 |

### 【授業時間外の学習】

日頃利用する小売店において、効率的な運営管理のために実際の現場ではどのような工夫を行っているのか、買い物の際やアルバイト先でもアンテナを張って吸収していくこと。実際の小売りの現場を見て授業内容と一致させることが、知識を身につける近道である。また、過去の問題を解いて知識を自分のものにする事。

### 【成績の評価】

評価は、受講態度（40%）、ミニレポート及びミニテスト（20%）、期末レポート（40%）の各項目（割合）により行う。その際、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、受講生のレポート等については講評し、フィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～』（キャリアック）販売・経営管理を使用する。当該ハンドブックは「商業業態論」「商品開発論」「販売技術論」「マーケティング論」の各授業と共通なので、セット購入を勧める。セット価格6,480円

### 【参考文献】

適宜指示する。

科目名： マーケティング論

担当教員： 大西 理之(ONISHI Takayuki)

### 【授業の紹介】

現在の流通業界を取り巻く環境は、少子高齢化やライフスタイルの変化をはじめ、IT（情報技術）化の急速な進展、流通外資の相次ぐ参入などにより、急激かつ大きく変化している。本授業では、多様化・高度化した顧客のニーズを的確に捉えた、商圏設定・売場づくり・プロモーション等について学習する。

また、授業で学んだ理論が社会で活用できるよう、ケーススタディを通じ実践力を養う。

本授業は、リテールマーケティング（販売士）3級検定試験の5科目のうちの1科目「マーケティング」に関する授業である。関連科目「商業業態論」「商品開発論」「販売技術論」「販売管理論」や課外講座（検定受験支援講座）を併せて受講すること。

学位授与の方針として、特に「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得と関係する。

### 【到達目標】

1. 流通業界におけるマーケティングの基礎が理解できる
2. 流通業界で唯一の公的資格である「3級販売士」合格水準の知識を有し活用できる

### 【授業計画】

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション（マーケティングとは）                  |
| 第2回  | 小売業のマーケティングの基本（4P理論の小売業への適用）          |
| 第3回  | ケーススタディ（市場の分析と自社の分析）                  |
| 第4回  | 顧客満足経営の基本知識                           |
| 第5回  | 顧客維持政策の基本知識・フリークエント・ショッパーズ・プログラムの基本知識 |
| 第6回  | ケーススタディ（マーケティングの基本戦略）                 |
| 第7回  | 商圏・立地条件の基本                            |
| 第8回  | 競争店調査・出店・マーケティングリサーチの基本               |
| 第9回  | ケーススタディ（新製品・新サービスを開発するマーケティング）        |
| 第10回 | リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）の基本        |
| 第11回 | ケーススタディ（今ある商品を売るマーケティング）              |
| 第12回 | 顧客志向型売場づくりの基本                         |
| 第13回 | ケーススタディ（ブランド戦略のためのマーケティング）            |
| 第14回 | ケーススタディ（Webマーケティングの基礎知識）              |
| 第15回 | これまでの講義の復習及び質疑応答、これからのマーケティングについて     |

### 【授業時間外の学習】

使用テキストの予習、復習以外に、新聞やニュース等の新商品情報に目を向けること。更に「3級販売士」取得を目指し、過去の問題に積極的に取り組み理解を深めること。

### 【成績の評価】

評価は、受講態度（40%）、ミニレポート（20%）、期末レポート（40%）の各項目（割合）により行う。なお、期末レポートを提出しない者は不合格とする。なお、ミニレポート・期末レポート等については、講評のうえフィードバックを行う。

### 【使用テキスト】

日本商工会議所・全国商工会連合会編『販売士ハンドブック（基礎編）～販売士検定試験3級対応～』（キャリアック）マーケティングを使用する。当該ハンドブックは「商業業態論」「商品開発論」「販売技術論」「販売管理論」の各授業と共通なので、セット購入を勧める。（セット価格6,480円）

### 【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： 中小企業論

担当教員： 岡本 丈彦(OKAMOTO Takehiko), 末包 昭彦(SUEKANE Akihiko)

### 【授業の紹介】

本講義においては、「中小企業」という存在を、アカデミックな観点から講義を行う。まず、「中小企業」の基礎概念について講義をするとともに、世界における中小企業の史的変遷及び、海外の中小企業と日本の中小企業の類似点と相違点を議論する。その後、中小企業を取り巻く経営環境の変化に適応し、存続・成長していくためのマネジメントについて講義を行う。その上で、保有する経営資源に限りのある中小企業が、それを克服し存続・成長していくためのマネジメントについて講義する。

本講義は、ディプロマポリシーの「グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通してその発展に貢献できること」と関連した科目である。

### 【到達目標】

本講義においては、学生に以下の3つのことを他人に説明することができるようになることを目標とする。

日本において「中小企業」とは、どのような位置づけにあるのかを説明できること。

「中小企業」が存続・成長していくためにはどのようなマネジメントが必要であるのかを説明できること。

日本経済を発展させるためには、「中小企業」にはどのような努力が求められるのかを説明できること。

本講義において重視している基礎力育成項目は、次のとおりである。

- ・クリティカル思考力
- ・コンセプチュアルスキル
- ・会計的数量把握力

### 【授業計画】

第1回 インTRODクシヨN 確認テスト 講義内容の説明

第2回 中小企業の特長

第3回 中小企業の歴史

第4回 海外の中小企業

第5回 中小企業問題と中小企業政策

第6回 経営環境の変容と戦略マネジメント

第7回 分業構造の変容と下請マネジメント

第8回 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント

第9回 産業構造の変容と地域産業マネジメント

第10回 世界市場の変容とグローバル・マネジメント

第11回 人材難と組織・人材マネジメント

第12回 後継者難と事業承継マネジメント

第13回 研究開発力不足と製品開発マネジメント

第14回 既存事業の衰退と事業開発マネジメント

第15回 これまでの講義のまとめ・質疑応答・重要ポイントのおさらい・課題レポートの完了確認等々

### 【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の範囲を提示するので、使用テキストの該当ページを読んでおくこと。また、課題レポートを2回課す。講義中に明示する所定の形式に従い作成の上、所定の場所に必ず期限を守り提出のこと。少なくとも片方のレポートを提出し、それが合格しなければ、試験を受けることができない。

所定の形式に従わないレポートは、採点の対象としない。

期日を過ぎたレポートは原則として受け取らない。

レポートの採点基準は、講義中に3点～5点明示する。

### 【成績の評価】

試験の得点(60%)、課題レポートの内容(30%)、そして、授業の積極性と態度(10%)で評価を行う。

課題レポートについては、採点基準を講義の中で明示し、それに従って採点を行い、希望する学生には点数を開示する。また、優秀なレポートについては講義の最中にフィールドワークを行う。

### 【使用テキスト】

井上善海・木村弘・瀬戸正則編著 大杉奉代・森宗一・遠藤真紀・山本公平・中井透著 [2014], 『中小企業経営入門』 中央経済社 2,300円+税。

### 【参考文献】

必要に応じて随時指示を行う。

科目名： 財務諸表論

担当教員： 津村 怜花(TSUMURA Reika)

### 【授業の紹介】

財務諸表は、企業の経営活動の結果を外部の利害関係者に報告するための資料である。本講義では、企業の財務会計がどのようにして企業活動の実態を会計情報へ描き出すのかを、種々の基準やそれに基づく簿記処理とともに学修することで、会計コースとして必要な専門知識を身に付ける。  
「簿記演習」・「簿記論」「会計学原理」を受講済みであることを前提に講義をすすめる。

### 【到達目標】

財務諸表と連結財務諸表の基本的な構造を理解する。  
財務諸表の作成、特に貸借対照表と損益計算書の作成に係る原則や基準を説明できる。  
以上の目標を達成することで、会計学に係る専門知識を身に付ける。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション - 会計の種類と役割
- 第2回 利益計算と財務諸表
- 第3回 財務会計のシステムと基本原則
- 第4回 企業会計原則
- 第5回 企業の設立と資金調達
- 第6回 仕入・生産活動
- 第7回 販売活動
- 第8回 設備投資と研究開発
- 第9回 資金の管理と運用
- 第10回 国際活動
- 第11回 税金と配当
- 第12回 財務諸表の作成と公開
- 第13回 企業集団の財務報告 財務3表を中心とした報告内容
- 第14回 企業集団の財務報告 連結株主資本等変動計算書他
- 第15回 これまでの内容の復習と質疑応答

### 【授業時間外の学習】

事前に指定するテキスト等の該当ページを読んで授業に参加すると共に、毎回課す宿題プリントに取り組み、復習をすること。

### 【成績の評価】

レポート等（40％）と期末試験（60％）に基づき総合的に評価する。  
レポート等の評価は講義時に講評ないし、結果についての問い合わせに応じる。  
また、期末試験の模範解答は掲示板にて公開する。

### 【使用テキスト】

桜井久勝編・須田一幸著『財務会計・入門（第10版補訂）』有斐閣アルマ（1,944円（税込））  
この他、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献】

桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社（4,104円（税込））



科目名： 原価計算論

担当教員： 岡田 龍哉(OKADA Tatsuya)

### 【授業の紹介】

原価計算は、特に製造企業において用いられる会計であり、製品原価の計算のみならず、企業内部で行われる様々な活動から発生する様々なアウトプットの原価を計算する会計である。したがって、原価計算は企業が限られた経済的資源を効率的に利用するために必要な会計であり、企業経営においては不可欠な会計である。本講義では、資源の投入から様々なアウトプットが産出されるまでに行われる価値の移転を意識しながら、工業簿記と原価計算のそれぞれの技法およびそれらの連絡について学ぶ。

### 【到達目標】

日商簿記検定2級程度の工業簿記および原価計算の知識を習得し、自ら計算できるようになる。

工業簿記および原価計算の背後にある理論や考え方について理解する。

種々の数値を算出するだけでなく、その数値が何を意味するのかについて深く考えられるようになる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：原価計算とは何か
- 第2回 原価計算総論：原価計算の概要
- 第3回 材料費の計算
- 第4回 労務費および経費の計算
- 第5回 製造間接費配賦の基礎と部門別計算
- 第6回 個別原価計算
- 第7回 単純総合原価計算
- 第8回 仕損が生じる場合の総合原価計算
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別総合原価計算と等級別総合原価計算
- 第11回 標準原価計算：計算構造と原価差異
- 第12回 標準原価計算：原価差異分析
- 第13回 直接原価計算
- 第14回 CVP分析
- 第15回 工場会計の独立

### 【授業時間外の学習】

原価計算は、他の簿記・会計分野と同様に日ごろから電卓を用いて自分で計算してみる姿勢が求められ、積極的な復習が不可欠である。したがって、毎回課す練習問題に取り組むだけでなく、各自、市販の問題集などを用いて自主的な学習を行うことが望ましい。

### 【成績の評価】

中間試験（40%）、期末試験（60%）により評価する。

### 【使用テキスト】

特に指定せず、配布資料を利用する。ただし、下記参考文献や市販の日商簿記検定2級程度のテキスト（最新版）を各自で購入しておくこと自習の役に立つ。

### 【参考文献】

- 岡本清・廣本敏郎『検定簿記講義 2級 工業簿記』中央経済社（最新版）。
- 岡本清・廣本敏郎『検定簿記ワークブック 2級 工業簿記』中央経済社（最新版）。
- 廣本敏郎・挽文子『原価計算論 第3版』中央経済社 2015年。

科目名： 管理会計論

担当教員： 岡田 龍哉(OKADA Tatsuya)

### 【授業の紹介】

管理会計とは、企業組織の各階層の経営管理者や、ひいては従業員1人1人に向けて、日々の経営管理活動に役立つための会計報告を行う会計である。本講義では、原価計算や企業予算を用いた業績管理会計と、差額原価収益分析や割引キャッシュフローの概念を用いた意思決定会計を中心に、企業内の人々がどのような情報を利用して、どのように収益を上げ、原価を削減し、利益を出そうとしているのかを学ぶ。また、活動基準原価計算(ABC)、品質原価計算、バランスト・スコアカード(BSC)などの比較的新しい管理会計手法や、トヨタ自動車における原価企画、京セラにおけるアメーバ経営など、日本企業が独自に開発した管理会計手法も取り扱う。

### 【到達目標】

様々な管理会計手法を身に付けながら、実際に計算できるようになる。  
様々な管理会計手法の背後にある思想や理念を理解する。  
企業の経営管理の場面において、どのような分析が必要で、どのような情報が求められているのか、自ら考えられるようになる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：管理会計とは何か
- 第2回 管理会計の考え方と基本概念
- 第3回 活動基準原価計算と活動基準管理(ABC/ABM)
- 第4回 品質原価計算とライフサイクル・コストニング
- 第5回 直接原価計算とCVP分析による利益管理
- 第6回 企業予算
- 第7回 事業部制の業績評価
- 第8回 バランスト・スコアカード：多元的業績評価と戦略実行プロセス
- 第9回 意思決定会計：総論
- 第10回 意思決定会計：差額原価収益分析
- 第11回 意思決定会計：回収期間法
- 第12回 意思決定会計：正味現在価値法
- 第13回 原価企画
- 第14回 アメーバ経営の基礎
- 第15回 病院におけるアメーバ経営

### 【授業時間外の学習】

管理会計論を学ぶにあたっては企業経営に関する様々な分野の知識を持つことが有用であり、特に、原価計算の知識は重要である。したがって、原価計算を履修済みであることが望ましく、履修済みでない場合は、積極的な自習が必要となる。また、様々な計算方法を学ぶことになるため、日ごろから電卓を用いて自分で計算してみる姿勢が求められる。

### 【成績の評価】

不定期に課す課題(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)によって評価する。

### 【使用テキスト】

特に指定せず、配布資料を利用する。ただし、自習の際には適宜、下記参考文献にあたることを推奨する。

### 【参考文献】

岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子『管理会計 第2版』中央経済社 2008年。

科目名： 経営分析論

担当教員： 井原 理代(IHARA Michiyo)

### 【授業の紹介】

私たちはいろいろな会社と関係しながら生活しています。みなさんは将来会社に就職するでしょうし、日々会社の生産した商品を購入しています。もしかしたら、会社の株式や社債を購入し、投資しようと考えている人もいるかもしれません。このように様々に関係する会社の経営状況はどのように把握するのでしょうか。みなさんは、企業活動を貨幣額で表すシステムとして会計を学び、そのシステムのアウトプットである財務諸表の作成について学習してきました。会社の経営状況を把握するためには、財務諸表を作成するだけでは十分でなく、それを活用し分析して、読み解く必要があります。

では、どのように財務諸表を分析し、読み解けばよいのでしょうか。それについて学習するのが、経営分析論です。経営分析論では、会社の経営状況を把握し、みなさんも含む会社の利害関係者の意思決定に役立つように、財務諸表の分析と読み解きの基礎的理論と実際の方法について検討します。その検討にあたっては、出来るだけ多くの会社の事例を使っていきます。

### 【到達目標】

財務諸表の正確な知識を踏まえ、財務諸表の分析の基礎となる理論、系統的な分析方法、分析結果の読み解きなどを学習し、財務諸表から会社を評価して、その実態を判断できる能力を修得することを目標にします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 財務諸表の役割
- 第3回 財務諸表の仕組み 貸借対照表
- 第4回 財務諸表の仕組み 損益計算書
- 第5回 財務諸表の仕組み キャッシュフロー計算書
- 第6回 財務諸表分析の基礎
- 第7回 収益性の分析 その視点と方法
- 第8回 収益性の分析 その実践
- 第9回 安全性の分析 その視点と方法
- 第10回 安全性の分析 その実践
- 第11回 財務諸表分析の意義と限界
- 第12回 ケーススタディ 会社情報
- 第13回 ケーススタディ 財務諸表分析
- 第14回 ケーススタディ 報告のまとめ
- 第15回 ケーススタディ プレゼンテーション

### 【授業時間外の学習】

授業の復習のために、適宜課題のプリントを配布し、提出を求める。

### 【成績の評価】

授業への貢献状況（発言等）、課題の提出状況、プレゼンテーション、確認テストなどを総合して評価する。

### 【使用テキスト】

特に用いず適宜講義資料配布するが、サブ・テキストとして、政岡光宏編著『初めて学ぶ財務諸表分析（三訂版）』同文館出版。

### 【参考文献】

授業の進捗に応じ適宜指示する。

科目名： 監査論

担当教員： 井上 善弘(INOUE Yoshihiro)

### 【授業の紹介】

財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学びます。財務諸表監査は、企業の公表する財務諸表の信頼性を独立した第三者の立場から保証することをその任務とするものであり、現代の経済社会における重要なインフラストラクチャーのひとつと考えられています。本授業を履修することで、会計学の主要領域のひとつである監査論の知識・技法を修得します。

### 【到達目標】

- 1 財務諸表監査の基本的な概念と方法論を理解できる。
- 2 財務諸表監査が今日の経済社会において果たしている役割を理解できる。

### 【授業計画】

- 第1回 監査の本質とは
- 第2回 財務諸表監査の意義
- 第3回 財務諸表監査はなぜ必要とされるのか
- 第4回 監査人
- 第5回 監査基準
- 第6回 財務諸表監査の全体像
- 第7回 アサーションと監査要点
- 第8回 監査証拠
- 第9回 監査手続(1)
- 第10回 監査手続(2)
- 第11回 内部統制と試査(1)
- 第12回 内部統制と試査(2)
- 第13回 監査報告書の意義と構造
- 第14回 監査意見の移行形態(1)
- 第15回 監査意見の移行形態(2)

### 【授業時間外の学習】

次回の授業までに授業の内容を復習をしておいてください。教科書の章末問題を解答するよう適宜指示します。

### 【成績の評価】

確認テスト(25%)×3回=75%(採点し授業終了後に返却します。)  
期末レポート25%(添削し授業終了後に返却します。)  
期末試験は実施しません。

### 【使用テキスト】

長吉・伊藤・北山・井上・岸・異島『監査論入門(第3版)』中央経済社,2016年。事前に必ず購入してください。

### 【参考文献】

井上編著『監査報告書の新展開』同文館,2014年。

科目名： 職業指導論

担当教員： 林 守孝(HAYASHI Moritaka)

### 【授業の紹介】

若者たちにいわゆるフリーター志向など定職に就かない傾向が見られるようになり、社会的問題になっていた時期もあるが、最近では、非正規雇用の割合も増え、若者を使い捨てる"ブラック企業"といわれるものも出現し、若者の雇用環境は、非常に厳しくなっている。これまでの学校における職業指導（進路指導）が、就職先や進学先の選択指導に陥っていなかっただろうか。職業とは何なのか？人はなぜ働くのか？労働の意義、職業と自分との関わりについて考え、社会参加への積極的な意欲や態度及び能力を育成することが求められている。高校生が自己の在りかたや生き方を考え、主体的に進路を選択できるようにするためには、どのような指導をすればよいのか、共に考えたい。そして、その指導のために必要な知識を体系的に修得することをめざす。

### 【到達目標】

職業指導（進路指導）を担当する教員として生徒たちに、勤労を重んじる態度と個性に応じた進路を選択できる力をつけさせるよう指導するために必要な知識を体系的に修得し、その知識を適切に活用することができるようになる。

### 【授業計画】

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 働くとはどういうことか
- 第3回 どんな仕事があるか
- 第4回 就労現場の状況
- 第5回 現在の雇用状況
- 第6回 職業適性検査
- 第7回 自己分析とキャリア設計
- 第8回 職業選択の方法
- 第9回 職業指導の意義
- 第10回 職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史
- 第11回 学校における職業指導・進路指導
- 第12回 進路指導の計画
- 第13回 進路指導の実践
- 第14回 家庭・諸機関等との連携
- 第15回 高校生に進路指導をするための必要事項のまとめ

### 【授業時間外の学習】

なるべく毎時間小課題を出し、それについて自分で調べてきて簡単に報告してもらうことにする。

### 【成績の評価】

受講態度（20%）、課題の達成状況（30%）、期末試験（50%）を総合して評価する。課題や期末試験の結果は、評価した後、返却する。

### 【使用テキスト】

講義中にプリントを配付する。

### 【参考文献】

- 「進路指導・キャリア教育の理論と実践」吉田辰雄他 日本文化科学社
- 「高等学校学習指導要領（平成21年11月）解説 総則編」

科目名： 教師論

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

「教育は人なり」といわれるように、教育の成否は教師の人間性や資質・能力に深く関わっている。それだけに教職は生徒の人格形成に大きな影響を与える仕事なので、その崇高な使命感と責任感を自覚する必要がある。また現在、教育をめぐる諸問題が山積しており、それらに適切に対応できる教師の専門性や職能成長が求められている。本授業では、教職を志望する者に必要とされる教師としての使命感や責任感、教育愛に支えられた教育実践力等について、具体的な場面を想定しながら理論と実践の両面にわたって総合的に学び、高等学校教師に求められる豊かな人間性や資質・能力を身に付けるとともに、学位授与の方針及び教職に関する知識、技法、態度を修得する。

### 【到達目標】

1. 教職の意義や役割、教師の身分や職務内容等について理解できる。
2. 将来、教師となるための心構えや諸準備について自ら進んで学習できる。
3. 日々向上心をもって自覚的に学習や経験を積み重ねていくよう「学び続ける力」を身に付けることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 教師とは何か、教育とは何か (P.1~P.17)
- 第2回 教師に求められる役割と資質能力 (P.18~P.28)
- 第3回 教師の職務(1) 生徒理解 (P.29~P.41)
- 第4回 教師の職務(2) 生徒指導 (P.42~P.62)
- 第5回 教師の職務(3) 学習指導と学習指導要領 (P.63~P.95)
- 第6回 教師の職務(4) 授業力をつける (P.96~P.113)
- 第7回 教育行政の仕組み (P.115~P.124)
- 第8回 教師の養成・採用・研修 教育員免許法・教員採用試験・教員免許更新制度 (P.125~P.135)
- 第9回 教師の身分とサービス—教育公務員特例法— (P.136~P.140)
- 第10回 教師の勤務条件 (P.141~P.148)
- 第11回 日本の学校教育制度と学校の組織 (P.149~P.156、P.229~P.252)
- 第12回 学校運営への参画と協力 (P.156~P.171)
- 第13回 教育の今日的課題(1) 道徳教育・部活動・キャリア教育 (P.173~P.202)
- 第14回 教育の今日的課題(2) 開かれた学校づくりと家庭・地域連繋及び教育接続 (P.203~P.228)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答~教師志望者としての自覚と自己変革に向けての取り組み

### 【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『教職論』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、教職課程関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に活用すること。

### 【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等(10%)に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー(10%)、ユニットごとの小テスト(20%)及び学修ノート(20%)・レポート(40%)の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。

### 【使用テキスト】

佐藤徹編『教職論—教職につくための基礎・基本—』(東海大学出版会、平成22年)

### 【参考文献】

グループ・デイクテイカ編『教師になること、教師であり続けること』(勁草書房、平成24年) 教職問題研究会編『教職論—教員を志すすべてのひとへ—』第2版(ミネルヴァ書房、平成24年) 秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』(有斐閣、平成27年) 高橋陽一編『新しい教師論』(武蔵野美大出版局、平成26年) 谷田巨公昭・林邦雄・成田國英編『教師論』(一藝社、平成14年) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

教育学原論は、教育職員免許法施行規則に定める教育の基礎理論（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）を学ぶ科目です。こういふとなんだか難しそうに聞こえるでしょうか？でも、家庭・学校・社会とあなたが生活をするどのような場でも教育はあなたに深く関わりのあるもので、とてもなじみの深いものでもありますね。この科目では、教育学を身近に感じてもらえるように教育学を概括的に学びます。

経営学部がポリシーに掲げる「自ら考え、判断し、行動できる力、すなわち社会人として活躍できる力を身に付け、地域を元気にするために活動できる」素養を教育実践にどのように活かすのかという視点を学んでいただきたいと思います。

### 【到達目標】

人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。

教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得を目指します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得を目指します。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育の意味と本質
- 第2回 教育目的の歴史の変遷
- 第3回 教育法規における教育の目的
- 第4回 西洋における教育の思想
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程
- 第6回 単線型学校の成立と主要国の学校制度
- 第7回 日本の学校教育の歴史
- 第8回 我が国における義務教育制度の概要
- 第9回 教育課程の基礎
- 第10回 学習指導の基礎
- 第11回 家庭教育
- 第12回 生涯学習
- 第13回 教師教育
- 第14回 現代教育の課題
- 第15回 今日の学校教育の課題

### 【授業時間外の学習】

適宜、レポート課題や授業前の学習課題を指示します。

### 【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート(約30%)、レポート(約20%)、試験(約50%)の3つを以て、総合的に評価する。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

### 【使用テキスト】

佐々木正治編著『新 初等教育原理』福村出版、2014年、2500円。

### 【参考文献】

授業時に、適宜、紹介します。

科目名： 教育心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

### 【授業の紹介】

教師は、児童・生徒の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。本講義の内容を理解すれば、皆さんが、今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくでしょう。

### 【到達目標】

1. 教師になるために必要となる教育心理学の基礎知識を身につけることができる
2. そのような知識をどのようにして児童・生徒の教育・保育に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることができる

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 記憶（1）（記憶のメカニズム）
- 第3回 記憶（2）（効率的に覚える方法）
- 第4回 学習（古典的条件づけと道具的条件づけ）
- 第5回 学習の動機づけ（1）（達成動機づけ）
- 第6回 学習の動機づけ（2）（内発的動機づけと外発的動機づけ）
- 第7回 発達（臨界期）
- 第8回 知的能力の発達（IQとIQの測定方法）
- 第9回 人格の発達（発達課題と性格特性）
- 第10回 発達障害の理解と支援
- 第11回 学習指導（学習指導の形態）
- 第12回 教育評価
- 第13回 学級と社会
- 第14回 学級崩壊
- 第15回 教育心理学を学ぶ意味

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを担当教員の個人ウェブページで公開していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

### 【成績の評価】

授業への積極的参加（10%）、レポート（20%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、期末テスト（60%）の総合判断により行います。

### 【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2009）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

### 【参考文献】

- 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2005）「改訂版 やさしい教育心理学」（有斐閣）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）



科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

### 【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが、また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとてたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

経営学部がポリシーに掲げる「自ら考え、判断し、行動できる力、すなわち社会人として活躍できる力を身に付け、地域を元気にするために活動できる」素養を教育実践にどのように活かすのかという視点を学んでいただきたいと思います。

### 【到達目標】

教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することを目指します。

この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができることを目標とします。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味
- 第2回 教育法規の理論と体系
- 第3回 我が国の教育行政制度
- 第4回 我が国の教育行政の組織と機能
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）
- 第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）
- 第7回 学校教育の法制
- 第8回 学校の制度と経営
- 第9回 教育課程の制度
- 第10回 教育の権利と義務
- 第11回 教職員の権利と義務
- 第12回 教職員の身分保障法制と研修
- 第13回 教育財政の法制
- 第14回 児童・生徒の管理
- 第15回 特別支援教育

### 【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

### 【成績の評価】

出席カードへのコメント(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

### 【使用テキスト】

2017年4月刊行予定の書籍を使用します。

### 【参考文献】

授業時に、その都度紹介します。

科目名： 教育課程論

担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

### 【授業の紹介】

本授業では、教育課程・カリキュラムの基礎的な原理を学習するとともに、学習指導要領の変遷と今日の教育施策の特長を考察する。その施策の視点と小学校から高等学校までの子どもたちの実態をふまえた年間指導計画・単元計画などの具体的なカリキュラムについて概観する。そのうえで、カリキュラム編成について学習する。

卒業要件には含まれないが、学位授与方針に掲げられた「自ら考え、判断し、行動できる能力、すなわち社会人として活躍できる資質・能力」を高めることに資する学習とする。

### 【到達目標】

- 1．これまでの教育課程・カリキュラムの理論的な背景を理解することができる。
- 2．現代の日本の教育状況と学校教育の課題を教育課程の側面から理解することができる。
- 3．学習指導要領の趣旨を理解し、学年・学校全体の教育課程の編成について説明することができる。
- 4．小学校から高等学校までの子どもの発達段階と発達課題を捉えてカリキュラムを編成するための態度を身につけることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 教育課程（カリキュラム）とは
- 第2回 教師と教育課程
- 第3回 教育課程の概念と構造
- 第4回 欧米における教育課程の系譜
- 第5回 日本における教育課程の変遷 - 経験主義
- 第6回 日本における教育課程の変遷 - 新教育批判と系統主義
- 第7回 日本における教育課程の変遷 - 「ゆとり」から現代へ
- 第8回 現代の学習指導要領における基本構造 - 小学校から高等学校
- 第9回 学習指導要領における教育課程実施上の配慮事項 - 言語活動の充実や活用型学力
- 第10回 教育課程と授業づくり（教科指導）
- 第11回 教育課程と授業づくり（総合学習）
- 第12回 教育課程と特別活動
- 第13回 教育課程と生活指導
- 第14回 小学校から高等学校の子どもの実態と教育課程・カリキュラム
- 第15回 教育課程の現状・課題・展望

### 【授業時間外の学習】

本授業では、授業毎に前時に学習した内容の小テストを実施する。履修する学生には、前時の復習をすることが求められる。

### 【成績の評価】

小レポート40%、テスト60%で評価する。小レポートについてはその都度添削して授業時に返却する。テストについて、採点基準を説明する。

### 【使用テキスト】

古川治・矢野裕俊・前迫孝徳編『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2015年。

### 【参考文献】

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説総則編 文部科学省
- 中学校学習指導要領 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説総則編 文部科学省
- 高等学校学習指導要領 文部科学省
- 高等学校学習指導要領解説総則編 文部科学省
- 山崎準二編『教育課程論』学文社、2009年。

科目名： 商業科教育法

担当教員： 穴吹 忠義(ANABUKI Tadayoshi)

### 【授業の紹介】

高等学校教諭一種免許状「商業」を取得するために、商業（ビジネス）教育とは何か、その理念と内容について学び、生徒を指導する教師としての資質・能力を高めるようにします。高等学校学習指導要領「商業」の解説を中心に、商業に関する教科・科目の概要とその指導方法を学習します。また、高等学校における商業教育の現状や課題を見つめ、これからの商業教育の展望を考え教育を通して社会人として地域に貢献できる人材の育成に努めます。プレゼンテーションを活用して、発表や模擬授業など実習を多く取り入れ実学としての商業教育の意義とその重要性についてわかりやすい授業に努めます。

### 【到達目標】

将来、教科「商業」を担当する教師として、商業（ビジネス）教育の基本理念が理解でき、商業に関する教育内容を体系的に把握でき、基礎的・基本的知識と指導法を身につけ、授業実践と指導ができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学習指導要領「商業」の内容と変遷
- 第3回 教科・商業科の目標
- 第4回 教科の組織（商業科の科目編成、分野構成）
- 第5回 商業の科目体系、基礎的科目としての「ビジネス基礎」
- 第6回 総合的科目としての「課題研究」「総合実践」「ビジネス実務」
- 第7回 マーケティング分野3科目の指導内容の要点
- 第8回 ビジネス経済分野3科目の指導内容の要点
- 第9回 会計分野5科目の指導内容の要点
- 第10回 ビジネス情報分野5科目の指導内容の要点
- 第11回 科目「ビジネス基礎」 経済のしくみ に関する模擬授業の実施と批評会
- 第12回 科目「ビジネス基礎」 流通のしくみ に関する模擬授業の実施と批評会
- 第13回 科目「ビジネス基礎」 金融の役割 に関する模擬授業の実施と批評会
- 第14回 科目「ビジネス基礎」 売買契約条件 に関する模擬授業の実施と批評会
- 第15回 これからの商業教育のあり方

### 【授業時間外の学習】

「平成11年改訂の学習指導要領の特徴をまとめよう」など必要に応じて学習内容のポイントを発表したり、レポートを提出してもらうので授業内容の整理を十分にしてください。また、模擬授業では、事前に授業の準備と教材研究を十分に行い、学習指導案・板書計画・授業用参考資料などを用意して全員に配布してもらいます。

### 【成績の評価】

筆記試験70%・発表10%・授業実践20%の割合で評価して認定を行います。出席が授業回数の2/3に達しない者は単位不認定とします。また、試験終了後、教務課窓口にて採点済み答案を返却し、解答例を閲覧できるようにします。

### 【使用テキスト】

なし。

### 【参考文献】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』（実教出版）

科目名： 商業科教育法

担当教員： 谷岡 由大(TANIOKA Yoshio)

### 【授業の紹介】

自ら考え、判断し、行動できる力を身に付け、高等学校教諭一種免許状「商業」を取得し、将来、高等学校で教科「商業」を担当する教員として、地域に貢献し活躍できるように、「商業科教育法」では、「商業科教育法」で修得した知識や技術を活用し、教育課程の編成や指導計画、指導方法や指導技術、評価を中心に学習します。

また、教職を目指す者として授業に対する心構えを確立してもらい、事前に自ら作成した教材をもとに模擬授業を数多く実践し、評価することで指導技術を学びます。

なお、この科目は、卒業要件には含まれませんが、学位授与方針に掲げられた、自ら考え、判断し、行動できる能力、すなわち社会人として活躍できる資質・能力を高めることに資する学習を行います。

### 【到達目標】

将来、「商業」を担当する教員として、  
教科に関する教育内容が体系的に把握でき、  
主な科目で指導に必要な知識や技術を身につけ、授業実践と指導法の基本ができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと高等学校における商業教育の現状
- 第2回 教育課程と学習指導
- 第3回 指導計画と授業展開
- 第4回 プレゼンテーションと授業
- 第5回 教材作成、効果的な授業
- 第6回 学習指導案の作成（講義と実習）
- 第7回 事例研究（学習指導案の発表と検討、改善）
- 第8回 事例研究（授業見学：高校へ出向き授業を見学）
- 第9回 授業研究（授業見学の振り返り、模擬授業の組立と学習指導案等作成）（実習）
- 第10回 授業研究（模擬授業の板書の整理、教材等作成、リハーサル、振り返り等）（実習）
- 第11回 模擬授業（板書等利用）の実施による授業研究とその評価（実習）
- 第12回 模擬授業（ICT等利用）の実施による授業研究とその評価（実習）
- 第13回 模擬授業（基礎的・基本的な科目）の実施による授業研究とその評価（実習）
- 第14回 模擬授業（基礎的・基本的な科目）の実施による授業研究とその評価（実習）
- 第15回 授業研究および「商業科教育法」のまとめ

### 【授業時間外の学習】

授業では、学習内容のポイントを発表したり、意見を述べたりします。レポートや学習指導案等も提出してもらいます。その準備として、授業内容の整理や復習を十分にしてください。

また、模擬授業実施の際は、事前に授業が行えるよう、自ら教材研究等に十分時間をかけて準備し、学習指導案や板書計画、授業用参考資料等を作成し提出、必要部数用意して全員に配布してもらいます。

### 【成績の評価】

教職を目指す者としての授業への取組（態度、発表、意欲など）20%、提出物（レポート、学習指導案など）40%、授業実践（模擬授業など）40%の割合で評価を行います。なお、提出物については、評価を行い後日返却します。出席が授業回数の2/3に達しない者は単位不認定とします。

### 【使用テキスト】

なし。

### 【参考文献】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』（実教出版）

『教職必携 最新商業科教育法 新訂版』（実教出版）

教科「商業」各科目の教科書は必要に応じ示します。

科目名： 特別活動の研究

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

特別活動は、各教科の学習とともに高等学校の教育課程の中で重要な位置を占める教育活動で、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の各内容から構成されている。本授業では、特別活動の教育的意義やその内容、指導方法等について理解を深めるとともに、高等学校教師に求められる特別活動指導における実践的な指導力を身に付け、学位授与の方針及び教職に関する知識、技法、態度を修得する。

### 【到達目標】

1. 望ましい集団活動を通して、心身の調和的発達や個性の伸長、よりよい生活や人間関係を築くための自主的・主体的態度の育成、人間としての在り方生き方について自覚できる。
2. 特別活動の目標や内容、指導方法等について、グループ学習などの体験的な活動を通して深く理解できる。
3. 特別活動の取扱い方や指導方法を身に付けることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・高等学校学習指導要領改訂の趣旨と要点 (P.1~P.5)
- 第2回 特別活動の目標と各活動・学校行事との関連 (P.6~P.10)
- 第3回 特別活動の基本的な性格と教育的意義 (P.11~P.17)
- 第4回 ホ - ムルーム活動の目標と内容 (P.18~P.32)
- 第5回 ホームルーム活動の指導計画と内容の取扱い (P.32~P.44)
- 第6回 生徒会活動の目標と内容 (P.45~P.49)
- 第7回 生徒会活動の指導計画と内容の取扱い (P.49~p.56)
- 第8回 学校行事の目標と内容 (P.56~P.63)
- 第9回 学校行事の指導計画と内容の取扱い (P.63~P.69)
- 第10回 特別活動の全体計画作成に当たっての配慮事項 (1) 生徒指導機能 (P.70~P.75)
- 第11回 特別活動に全体計画作成に当たっての配慮事項 (2) ガイダンス機能 (P.75~P.76)
- 第12回 特別活動の内容の取扱いに就いての配慮事項 (P.77~P.79)
- 第13回 入学式・卒業式などにおける国旗及び国家の取扱い・特別活動担当教師 (P.80~P.82)
- 第14回 特別活動における評価・総則関連事項 (P.83~P.86)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答~特別活動の教育的意義についての再確認~

### 【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと、また、ユニットの区切りには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、特別活動関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に活用すること。

### 【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等 (10%) に加え、毎授業後に提出のリフレクション・ペーパー (10%)、ユニットごとの小テスト (20%) 及び学修ノート (20%)、レポート (40%) の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。

### 【使用テキスト】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』(海文堂出版、平成21年)

### 【参考文献】

堀井啓幸他編『特別活動の理論と実践』(教育開発研究所、平成28年) 山口満編『改訂新版 特別活動と人間形成』(学文社、平成22年) 高橋哲夫他編『特別活動研究 第三版』(教育出版、平成22年) 関川悦雄『最新特別活動の研究』(啓明出版、平成22年) 中野目直明・小川一郎編『現代の特別活動 第2版』(酒井書店・育英堂、平成14年) 山口五郎他編『特別活動の理論と実践 新訂三版』(学文社、平成14年) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 教育の方法及び技術  
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

### 【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そのためには、学習者の興味・関心や学習スタイルなどの個性に対応した弾力的で多様な学習形態が要求されます。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用が可能な教育の方法及び技術が修得できることをめざします。

### 【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムの設計ができる。
3. インターネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. 新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間の成長発達・教育の意義
- 第3回 学習指導要領と学力観の変遷・PISA型学力
- 第4回 情報社会の変遷と情報活用能力
- 第5回 学校におけるICTの活用
- 第6回 動機付け・認知と記憶
- 第7回 情報社会の光と影・情報モラル
- 第8回 教育の方法 / プログラム学習とCAI
- 第9回 教育の方法 / アクティブ・ラーニング
- 第10回 教育の方法 / モジュール学習
- 第11回 教育技術 / ICT活用と教授学習システムの設計
- 第12回 教育技術 / 授業研究とマイクロティーチング
- 第13回 教育技術 / 待ち行列と交通管制シミュレーション
- 第14回 教育技術 / 新幹線予約システムのモデル化
- 第15回 教育の方法及び技術のまとめと展望等

### 【授業時間外の学習】

配布された印刷物は、随時、ファイリングし、授業での活用のほか、授業前の予習、授業後の復習や期末試験に向けたまとめなどに利用しましょう。

### 【成績の評価】

課題別レポート(約30%)、期末試験(約70%)等を勘案しながら総合的に評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

なし

### 【参考文献】

なし

科目名： 生徒指導の研究（進路指導を含む）

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

現在、学校現場ではいじめ、不登校、校内暴力、非行など生徒指導上の問題への適切な対応や、フリーター、ニート、早期離職率の増加など勤労観や職業観に関わる進路指導上の課題への積極的な取り組みが強く求められている。生徒指導（ガイダンス）と進路指導（キャリア教育）は、教科指導とともに高等学校教師の必須条件となっている。本授業では、「生きる力」の育成をキーワードに、生徒指導・進路指導に関する基本的な考え方や実践的な理論及び方法について具体的な事例をもとに理解を深めるとともに、学位授与の方針及び高等学校教師に求められる教職に関する知識、技法、態度を修得する。

### 【到達目標】

1. 将来教職をめざす者として生徒指導・進路指導に関する基礎的・基盤的な知識・技能を身に付けることができる。
2. 生徒理解の方法や生き方の指導に関する理論及び方法について理解できる。
3. 実践的に物事を考える態度や学び続けるための思考力を身に付けることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・生徒指導の歴史と発展（P.9～P.16）
- 第2回 進路指導の歴史と発展（P.17～P.36）
- 第3回 人格理論・発達理論（P.37～P.48）
- 第4回 環境論・グループガイダンス理論、カウンセリング理論（P.49～P.54）
- 第5回 生徒指導の理念と性格（P.55～P.67）
- 第6回 進路指導の理念と性格（P.68～P.74）
- 第7回 生徒理解の意義と内容、生徒の個人資料の収集と活用（P.75～P.87）
- 第8回 生徒指導における心理検査の活用（P.87～P.96）
- 第9回 生徒指導・進路指導の校内組織（P.97～P.104）
- 第10回 生徒指導・進路指導における教師の役割（P.104～P.114）
- 第11回 教育相談・進路相談の方法と技術（P.115～P.134）
- 第12回 高校における生徒指導・キャリア教育の計画と実践（P.160～P.174）
- 第13回 生徒の問題行動と少年非行（P.175～P.190）
- 第14回 不登校・高校中退問題（P.191～P.200）
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～生徒指導・進路指導のアセスメント～（P.201～P.216）

### 【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『最新 生徒指導・進路指導論』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、生徒指導・進路指導関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に活用すること。

### 【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等（10%）に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー（10%）、ユニットごと的小テスト（20%）及び学修ノート（20%）・レポート（40%）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。

### 【使用テキスト】

吉田辰雄編著『最新 生徒指導・進路指導論 ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』（教職課程シリーズ、図書文化社、平成18年）

### 【参考文献】

『高等学校学習指導要領』（文部科学省、平成21年）『生徒指導提要』（文部科学省、平成22年）『小・中・高キャリア教育推進の手引き』（文部科学省、平成18年）高橋超・石井眞治・熊谷信順編著『生徒指導・進路指導』（ミネルヴァ書房、平成14年）松田文子・高橋超編著『生きる力が育つ生徒指導と進路指導』（北大路書房、平成17年）ハヴィガースト、R.J.著・荘司雅子訳『人間の発達課題と教育』（玉川大学出版会、平成7年）ほか、必要に応じて、授業の中で適宜紹介する。

科目名： 教育相談

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

### 【授業の紹介】

現在、学校現場では急激な社会の変化や価値観の多様化に伴い、生徒の間に不登校やいじめ、集団不適應、校内暴力、非行などの様々な問題が生じてきている。従って、これから高等学校教師をめざす者にとって、教育相談に関する基礎的な知識と基本的な技法の習得は不可欠である。本授業では、高等学校教師に必要とされる教育相談に関する基本的な考え方や、学校における教育相談の在り方について、生徒との日常的なかかわりの具体的な場面を想定しながら事例研究を行うとともに、教育相談の理論及び方法の理解を通じて生徒理解力とカウンセリング・マインドを身に付け、学位授与の方針及び教職に関する知識、技法、態度を修得する。

### 【到達目標】

1. 生徒の支援を中心とした学校教育相談的な考え方や捉え方について理解を深めることができる。
2. 生徒のニーズに柔軟に対応していくための基礎的な教育相談の知識や基本的な教育相談技法について、グループ学習や体験学習等を通じて実践的に学ぶことができる。
3. 高等学校教師に求められる教育相談についての理論及び方法を理解できる。
4. 生徒理解のためのカウンセリング・マインドを身に付けることができる。

### 【授業計画】

- |      |                                              |
|------|----------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション・カウンセリング・マインドとは (P.37～P.37)         |
| 第2回  | 教師のための学校カウンセリングの特徴 (P.4～P.20)                |
| 第3回  | 生徒の理解 (P.21～P.39)                            |
| 第4回  | 教師と保護者のコミュニケーション (P.41～P.53)                 |
| 第5回  | 学校カウンセリングの組織と連携 (P.55～P.79)                  |
| 第6回  | 予防・開発的カウンセリング・生徒の状態を把握する (P.81～P.100)        |
| 第7回  | 生徒同士の理解を深める (P.101～P.114)                    |
| 第8回  | ソーシャルスキル・ライフスキルを育む (P.115～P.154)             |
| 第9回  | キャリア教育 (P.155～P.172)                         |
| 第10回 | 個別支援につなげる学校カウンセリング・集団不適應 (P.173～P.191)       |
| 第11回 | 不登校 (P.193～P.209)                            |
| 第12回 | いじめ (P.211～P.226)                            |
| 第13回 | 非行・児童虐待・ASD・PTSD (P.227～P.276)               |
| 第14回 | 特別支援を必要とするLD・ADHD・高機能自閉症生徒への支援 (P.278～P.331) |
| 第15回 | これまでの授業のまとめと質疑応答～生徒の社会的能力を育てるために～            |

### 【授業時間外の学習】

毎時間中に質問をするので、テキスト『教師のための学校カウンセリング』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に活用すること。

### 【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な授業参加状況の度合い等(10%)に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー(10%)、ユニットごとの小テスト(20%)及び学修ノート(20%)・レポート(40%)の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。

### 【使用テキスト】

小林正幸・橋本創一・松尾直博編『教師のための学校カウンセリング』(有斐閣、平成20年)

### 【参考文献】

菅野純著『教師のためのカウンセリングワークブック』(金子書房、平成13年)一丸藤太郎他編『学校教育相談』(ミネルヴァ書房、平成14年)樺澤徹著『学校カウンセリングの考え方・進め方』(金子書房、平成15年)渡辺三枝子他編『学校に生かすカウンセリング』(ナカニシ出版、平成16年)広木克行著『教育相談』(学文社、平成20年)ほか、必要に応じて、授業の中で適宜紹介する。



科目名： 教育実習事前事後指導 ( H29年度履修者なしにより休講のため昨年度のシラバス)  
担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi)

### 【授業の紹介】

高等学校で教育実習を行うための準備学習をする。実習後は反省と総括をして授業の締めくくりとする。

### 【到達目標】

- (1)高等学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
- (2)自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。
- (3)学校教育活動に必要な知識や判断力を習得することができる。
- (4)学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を習得することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義・目的・内容等について
- 第2回 実習校の研究と実習上の留意点
- 第3回 小論文の書き方と教材研究について
- 第4回 学習指導と生活指導の方法
- 第5回 学習指導案の作成
- 第6回 模擬授業の実施と批評
- 第7回 教育実習事前学習の振り返り
- 第8回 教育実習体験後の報告及び指導助言

### 【授業時間外の学習】

教育実習に必要とされる授業の内容や学習指導案の作成をしてください。事後指導においては、教育実習の振り返りを行いますので、実習ノートの作成、実習時の問題点、今後の展望についてレポートを提出してもらいます。

### 【成績の評価】

評価は、授業への興味関心及び授業に積極的に参加する態度20%、課題レポート30%、授業内発表（教育実習体験報告を含む）50%でおこないます。

### 【使用テキスト】

池田稔・酒井豊・野里房代・宇井治郎編著『教育実習総説』学文社 2011年3月10日刊行

### 【参考文献】

必要に応じてその都度指定する。

科目名： 高等学校教育実習 ( H29年度履修者なしにより休講のため昨年度のシラバス)  
担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi)

### 【授業の紹介】

高等学校で2週間の教育実習を行い、実際に教員として生徒の指導ができるようになるための勉強をする。当授業科目は、「教職に関する科目」の中で総仕上げとも言えるものである。

### 【到達目標】

学校現場で教職員や生徒と接することを通して、高等学校の教員として教壇に立つために必要な知識や技能を身につける。

### 【授業計画】

高等学校教育実習

<第1週> 実習内容は、実習校の経営・指導方針等により変更することがあります。

- 1 学校の教育方針や特色ある教育について
- 2 指導講話 学習指導について
- 3 指導講話 生活指導について
- 4 指導講話 実習全般について
- 5 学級の実態と学級経営について
- 6 学級事務についての考え方と実習について
- 7 学習指導案の立案・考え方について
- 8 示範授業の参観と研究

<第2週>

- 1 授業参観と授業記録の取り方について
- 2 教材研究の仕方と学習指導案の書き方について
- 3 授業参観(学習過程、板書、発問等)
- 4 授業参観(生徒の反応、つぶやき、表情等)
- 5 問題のある生徒の実態把握

### 【授業時間外の学習】

教育実習に必要とされる授業の内容や学習指導案の作成をしてください。事後指導においては、教育実習の振り返りを行いますので、実習ノートの作成、実習時の問題点、今後の展望についてレポートを提出してまいります。

### 【成績の評価】

実習中の様々な活動状況や成果80%学習態度20%で評価する。

### 【使用テキスト】

久野靖 辰巳丈夫監修『情報科教育法 改訂2版』オーム社2009年2月  
文部省『高等学校学習指導要領解説 情報編』開隆堂出版2010年5月15日

### 【参考文献】

なし

科目名： 教職実践演習（高校）（ H29年度履修者なしにより休講のため昨年度のシラバス）  
担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi),山口 直木(YAMAGUCHI Naoki),花城 清紀  
(HANASHIRO Kiyonori)

### 【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の活動を通して、学生が身につけた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものである。

以上について、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図る。  
なお、後期開講であるが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがある。

### 【到達目標】

- (1) 高等学校教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身につける。
- (2) 高等学校教員としての社会性や対人関係能力を身につける。
- (3) 高校生についての理解や学級経営等に関する知識を身につけ、基礎的経験をする。
- (4) 高等学校の教育課程や指導についての知識と指導力を形成する。

### 【授業計画】

以下のように各回2コマ実施する。

- |      |                          |                                   |                     |    |
|------|--------------------------|-----------------------------------|---------------------|----|
| 第1回  | オリエンテーション                | 本演習の目的と進め方                        | 教職を取り巻く現代的問題の考察（討議） |    |
| 第2回  | 履修全体の振り返りと検討             | 課題の確認                             |                     |    |
| 第3回  | 使命感、責任感、教育的愛情等に関する事項     | 履修内容の整理と成果及び問題点のまとめ（教職ポートフォリオの整理） |                     | 発表 |
| 第4回  | 高等学校教員のあり方と実際            |                                   |                     | 発表 |
| 第5回  | 高等学校の現状と課題に関する事項         | 県下高等学校の学校経営や教育行政の状況               |                     | 討議 |
| 第6回  | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)      | 教員に求められるマナーや社会性の検討                |                     | 演習 |
| 第7回  | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)      | 生徒への対応                            | 保護者への対応             |    |
| 第8回  | 生徒の理解やホームルーム経営等に関する事項(1) | 生徒の理解について(講義)                     | 同(演習)               |    |
| 第9回  | 生徒の理解やホームルーム経営等に関する事項(2) | 特別な支援を必要とする生徒の理解(講義)              | 同(演習)               |    |
| 第10回 | 生徒の理解やホームルーム経営等に関する事項(3) | ホームルーム経営計画(講義)                    | 計画の作成・検討            |    |
| 第11回 | 教育内容の指導力に関する事項(1)        | 教育課程の編成原理等の理解(講義)                 |                     | 討議 |
| 第12回 | 生徒の理解やホームルーム経営等に関する事項(3) | 保護者の声を聞く                          |                     | 討議 |
| 第13回 | 教育方法の指導力に関する事項(3)        | 新しい教育方法や技術の検討(講義)                 |                     | 演習 |
| 第14回 | 新しい高等学校教育                | 教育課程特例制度などの検討(現地調査)               |                     |    |
| 第15回 | 教員に求められる資質・能力のまとめ(1)     | 討議                                | 総括                  |    |
|      |                          | 発表                                | 発表と総括               |    |

### 【授業時間外の学習】

各回について、授業後に感想、疑問、意見などをA4用紙1枚にまとめて、次回に提出する。

### 【成績の評価】

毎回についてのまとめ、討議や発表における参加度30%、提出物60%で評価する。

### 【使用テキスト】

文部科学省『高等学校学習指導要領』2016年。ただし、他の文献でこれが掲載されているものでもよい

### 【参考文献】

特に指定しない。資料を適宜配付する。

科目名： ボランティア

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

### 【授業の紹介】

ボランティア活動を通じて、社会に役立つことの喜び・生きがい・幸せを実感しよう。また活動を通じて多くの異世代の人たちと出会うことがあなた自身の新しい発見になるでしょう。人間関係が苦手な人も、人間が大好きな人も「ボランティア活動」をはじめませんか。ボランティア活動は、人のために役立つことをするというだけでなく、自分が社会に、何ができるのかを発見する活動です。結果的に、与えるものよりも、与えられるもの大きさを感じとれるようになれば、あなた自身の「生きる力」がしっかり身についた証拠です。この力を身につける具体的なことは、成功体験（成し遂げ体験）、共感体験・感動体験・集団体験・生活体験・自然体験などが必要でしょう。この授業では、君たちの人生の広がりにつながっていくよう願っています。そのために少しでも活動を頑張りましょう。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、自ら学び、自ら考え、自ら気づき、自ら表現し、自ら行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけることです。これらの資質や能力は、社会に巣立って行く君たちに求められているものです。そのために、ボランティアの基本的性格・理念・思想・歴史など基本的な事柄の理解からはじめます。

ボランティア活動の実際は、教室・地域で行います。その実体験から、自らの新しい価値観が生まれ出し、自ら身につくことを目標にしています。1人の人間として成長がはじまります。フィールドで体験するボランティア活動は、社会の構成員としての自覚を、認識させてくれます。

### 【授業計画】

第1回	オリエンテーション（講義の進め方と講義課題の説明）
第2回	ボランティア活動基礎編（オリエンテーション&講義）
第3回	ボランティア活動基礎編（NPO活動情報）
第4回	ボランティア活動基礎編（NGO活動情報）
第5回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第6回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第7回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第8回	ボランティア活動基礎編（講義&ワーク）
第9回	ボランティア活動現場編（講義&ワーク）
第10回	ボランティア活動の現場編（施設訪問）
第11回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第12回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第13回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第14回	ボランティア活動の現場編（ワーク）
第15回	ボランティア活動のまとめ

### 【授業時間外の学習】

授業の形式は「2E」ですが、週1コマの講義と、それ以外に4月から8月中旬までに、自らボランティア活動先を探し、学外活動を30時間程度実施する必要があります。地域での活動に積極的に参加して行きましょう。多くの人々とつながっていきましょう。君が成長できるチャンスです。

### 【成績の評価】

学外ボランティア活動・受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

### 【使用テキスト】

使用テキストなし。必要なプリントを配布します。ファイル保存のこと。

### 【参考文献】

適宜伝えます。

科目名： アンケート調査法 ( H29年度休講のため昨年度のシラバス)

担当教員： 竹内 由佳(TAKEUCHI Yuka)

### 【授業の紹介】

統計学では、「出て来た結果を理解すること」と、「その結果を解釈すること」の二つができて初めて、「統計を理解する」ことができたと言えると考えられます。そしてまた、統計は、様々な問題について解決の糸口を与える半面、すぐに数字でウソをつき、人を騙す道具にもなり得る諸刃の剣でもあるのです。

この授業では、統計とはどのようなものか、統計において使用される言葉は何を意味しているのかについて学習することができます。また、授業の後半では、これから皆さんが各自専門領域を学んでいく上で必要となるであろうアンケート調査についても触れていきます。

また、講義では数学の知識が必須となっているため、高校レベルの数学を理解している上で受講してください。

### 【到達目標】

出てきた結果について正しく理解できる。

出てきた結果を正しく解釈できる。

自分の学習分野において、統計的手法を使用する際のメリット・デメリットについて説明できる。

アンケート調査作成に関する知識を得る。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 統計的なものの考え方
- 第3回 データ収集・度数分布表
- 第4回 データ特性を示す数値
- 第5回 相関係数
- 第6回 確率と統計学
- 第7回 母集団と標本
- 第8回 これまでの復習と質疑応答（第2回～第7回の内容について）
- 第9回 仮説検定の考え方
- 第10回 アンケート調査とは
- 第11回 サンプルング
- 第12回 ワーディング
- 第13回 調査票の構成
- 第14回 量的調査と質的調査
- 第15回 これまでの復習と質疑応答（第9回～14回の内容について）

### 【授業時間外の学習】

復習を大事にしてください。

どんなに疲れている時でも、授業後のノートをその日のうちに眺めておくだけでも違うと思います。

忘れないうちに計算問題をやり直すなど、必ず復習を行ってください。

また、講義終わりには小テストを行います。

その小テストを確実に解けるよう、学習を行ってください。

### 【成績の評価】

成績は、小テスト（50%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。

### 【使用テキスト】

得津一郎著『はじめての統計』，（有斐閣ブックス，2002年），2484円。

また、教員より配布するプリント等を大事に扱ってください。

### 【参考文献】

適宜紹介していきます。

科目名： 統計学概論

担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

### 【授業の紹介】

統計学の考え方を理解し、実際の社会・経済・経営の世の中で生活していくための知恵を獲得してほしい。統計学の分析法は、必ず将来実社会で役に立つはずである。これにより、学位授与の方針のうち、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

なお、本授業は、小グループ毎に情報収集・討議と発表を行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。

### 【到達目標】

1. 統計分析の一つとして、統計データからいろいろなグラフを作成することができる。
2. 統計分析の一つとして、統計データからいろいろな統計表を作成することができる。
3. 統計分析の一つとして、統計データからいろいろな数値を計算することができる。
4. 作成したグラフ・統計表・統計値を解釈し、わかったことを箇条書きにすることができる。
5. 統計学の重要な専門用語、公式をよく理解し説明し応用することができる。
6. 統計手法を身につけることで、実社会で仕事をこなしていく実践力を養うことができる。

### 【授業計画】

- |      |                  |
|------|------------------|
| 第1回  | 度数分布表            |
| 第2回  | ヒストグラム           |
| 第3回  | 代表値（平均値）         |
| 第4回  | 散布度（標準偏差）        |
| 第5回  | 散布図（2つ以上の変数）     |
| 第6回  | 相関係数（2つ以上の変数）    |
| 第7回  | 回帰分析（2つ以上の変数）    |
| 第8回  | 確率と確率分布          |
| 第9回  | 正規分布の性質          |
| 第10回 | 正規分布の確率計算        |
| 第11回 | 正規分布の確率とEXCELの関数 |
| 第12回 | 標本分布             |
| 第13回 | 推定（平均値の推定）       |
| 第14回 | 推定（比率の推定）        |
| 第15回 | これまでの授業のまとめと質疑応答 |

### 【授業時間外の学習】

毎回の授業内容について、予習復習を行い、よく理解しておくこと。

### 【成績の評価】

レポート提出（100％）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

### 【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

### 【参考文献】

P.G.ホーエル（浅井晃/村上正康訳）『初等統計学第4版』培風館、1981年。（\1,998）